

令和 2 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 北星会

【事業概要】

1. 社会福祉法人北星会の状況

令和2年度は地域包括ケアシステム、特に「医療」と「介護」の連携や介護リハビリ移行実現のために各施設・事業所間の横のつながりを重視し、法人一体となり、職員が誇りを持って働ける事業の展開を目指しました。

この目標を令和3年度も継続するとともに、評議員・理事の任期満了に伴い、新たな評議員会、理事会を組織し、社会福祉法人に求められる変化や多様化する福祉、介護ニーズに柔軟に対応できるよう検討をお願いしてまいります。

○令和2年度の重点項目

- ・天橋園の改修事業とその後の事業展開

令和 2年 2月18日 契約締結

19日 工事着手

11月20日 仮引き渡し

12月11日 新規建物にて事業開始

令和 3年 5月26日 最終引き渡し

- ・R e s t y l e通所介護事業所 サテライトから単独事業所への移行

令和 2年 4月 1日 単独事業所として事業開始

- ・栗田小学校区放課後児童クラブの運営継続

令和2年度も継続して宮津市より事業を受託

- ・与謝の園 移転計画策定

令和 2年 9月16日 京都府 計画ヒアリング

10月 2日 与謝野町より京都府に対し事業計画表提出

12月 1日 与謝野町 全体工程の見直しについて連絡

12月 8日 京都府 補助金申請年度変更の指示

令和 3年 1月 7日 与謝野町福祉課 計画工程等確認

- ・天橋の郷 空調設備及びLED照明設備の改修

令和 2年 9月30日 工事着工

令和 3年 3月10日 引き渡し

- ・働き方改革の理念に沿った職員給与体系及び諸手当の見直し

施設長会議において検討するとともに、令和2年度中に給与規程改定プロジェクト会議を第7回開催。

令和2年度 社会福祉法人北星会 法人本部 事業報告書

【年度統括】

令和2年度は、本部各課の働きを強化すべく取り組みましたが、各施設の職員代表から「本部は何を行っているのかわかりにくい」等の意見も聞かれ、法人本部としての判断や決定。責任を持った働き。各事業所との連携。といった部分に課題を残しました。

令和3年度は、本部事務分掌の見直しや責任の所在を明確にするなど本部業務の効率化と透明化を図ります。

【事業報告】

概 況

- ・与謝の園 移転計画策定

与謝野町立桑飼小学校跡地に移転新築を予定しています。隣接予定の加悦こども園整備事業等と一体の計画の中で整備を進めておりますが、与謝野町の計画の進捗により、京都府からの指示もあり、計画を1年繰り下げ令和4年度整備事業として計画を進めてまいります。

- ・天橋の郷 空調設備及びLED照明設備の改修

補助金決定時の補正予算計上において事務手続きのミスがありましたが、事業自体は完成し、当初の目的を達成しています。

- ・働き方改革の理念に沿った職員給与体系及び諸手当の見直し

プロジェクト会議を立ち上げ給与規定改定の議論を開始しました。残念ながら議論が間に合わず現既定のまま新年度を迎えています。令和3年度も給与規定等改訂の議論を引き続き行います。

- ・天橋園の改修に伴う地域への取り組み事業の検討

工事完成の遅れとコロナの影響により、具体的な取り組みが開始できませんでした。新年度は、新たな職員も加え、柔軟な取り組みを行いたいと考えます。

- ・栗田小学校区放課後児童クラブの運営

法人初の高齢者福祉以外の事業への取り組みでありましたが、宮津市からも北星会の運営に信頼をいただいていると考えます。

新年度は、指導員の交代もあり、利用児童にとってより有意義な事業となるよう努力します。

・リクルートチームの活動支援と若手職員求人活動の強化

令和2年度は、直接活動できる機会は限られましたが、オンライン面会やインターンシップを実施しました。令和3年度も引き続きリクルートチームや若手職員が求人活動へ積極的に関与できるよう支援を継続します。

総務課

令和2年度は、一元化した人事・労務・給与の安定した業務遂行と、人材確保に向けた各種就職説明会の出展・広報活動を進めてきました。

また、京都府が推進する福祉業界育成事業への参加を通して、若手職員による福祉職場の魅力発信の取り組みを進めました。

1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 人事・労務・給与業務の一元化について、現状を把握し、拠点事務負担の軽減等、今後の方向性を検討しました。
- ② 勤怠管理システム（クロノス）の活用により、年次有給休暇や時間外勤務、出退勤等の勤怠情報を集計し、給与計算処理の効率化を図りました。
- ③ 社会保険の電子申請の整備により、事務手続きの効率化を図りました。
- ④ 給与明細書・賞与明細書・源泉徴収票を、電子交付（明細書をメールに添付してお知らせ）することを検討し、開始に向けて準備を行いました。
- ⑤ 就職情報サイトへの新規掲載や京都市会場への出展を含めた就職フェアへの参加、見学、実習及びインターンシップの受け入れにより、職員採用に繋がるように取り組みました。
- ⑥ 近隣法人との連携による職員採用・育成活動に関する検討を行いました。（令和3年度より事業課に引き継ぎ）
- ⑦ 福祉課程教育機関の令和3年度実習についての受け入れ契約締結を行いました。

2. 広報活動の充実

- ① 見やすくデザイン変更した広報誌「きらめき」の発行で、地域の方や求職者に法人の魅力が伝わるように工夫し、法人の取り組みについて広く知ってもらえるように努めました。
- ② 法人が求める人材の獲得を目指し、採用のための広報活動（ホームページの管理・運営、フェイスブック等のSNSを活用した求人情報のPR等）を行いました。

3. 規則規程関係の整備

- ① 職員が安心して業務を行える環境整備のための、給与規程、就業規則及び各種管理規程の改定を受け、必要な整備を行いました。
 - ・定款施行細則の一部改定（基本財産の追加）
 - ・就業規則の一部改定（年次有給休暇の取得単位の追加）

- ・ 有期契約職員就業規則の一部改定（年次有給休暇の取得単位の追加）
- ・ 無期契約転換職員就業規則の一部改定（年次有給休暇の取得単位の追加）
- ・ 役員等報酬規程の一部改定（理事・監事に対する報酬総額の記載）
- ・ 法人クレジットカード利用取扱規程の制定
- ・ 経理既定の一部改定（クレジットカードによる支払いの追加）

4. コロナ禍における働き

- ① 新型コロナ感染症予防のための消耗備品（マスク、消毒用アルコール等）について、法人一括購入により費用を抑え備品を確保しました。
- ② 新型コロナ感染症予防に係る備品購入及び職員への慰労金給付について、法人一括での助成金給付申請を行いました。

事業課

令和2年度 事業課では、以下の事業を行ってきました。

1. 天橋園群施設整備事業支援
2. 与謝の園建替え事業支援
3. 栗田小学校放課後児童クラブ事業
4. 配食サービス事業事務
5. 北星会サービス事業所連絡会議運営
6. 府有未使用資産の利活用事業
7. その他の事業

1. 天橋園群施設整備事業

令和2年12月に第1期の工事が終了し、「総合在宅支援天橋園」の建物が完成いたしました。第2期工事はデイサービス棟、グループホームの解体及び外構工事で、アスベスト除去工事に時間を要するため終了は5月末の予定となりました。新たに整備されたデイサービス、認知症デイサービス、ワンユニット増床し、定員18名となったグループホームも順次営業を再開しております。事業課としては、効率よく働きやすい職場を目指し、家具・家電・備品等の納入を行いました。今後は、新型コロナウイルス対策を含めたBCPの協働作成を行っていきたいと考えております。

2. 与謝の園建替え事業

施設の老朽化に伴い、移設、建て替えを予定していますが、埋蔵文化財や忠魂碑の関係で計画は遅れております。そういったこともあり、事業課として与謝の園建替え事業に関わることはほとんどありませんでした。令和4年、5年度事業として建て替えを進めていく中で、天橋園での建て替え経験をいかし、本部として支援したいと考えております。

3. 栗田のびのび放課後児童クラブ事業

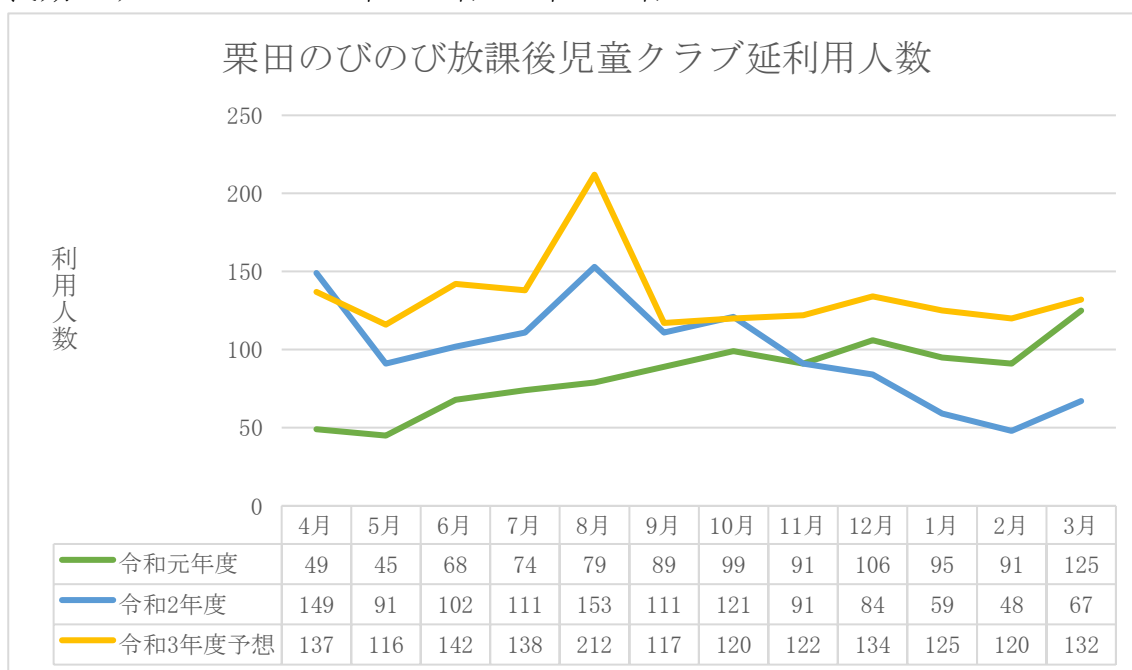
平成 31 年 4 月より宮津市の委託を受け運営してきた栗田のびのび放課後児童クラブですが、令和 2 年度の 10 月から支援員・補助員の体制を少し変え、本部が関わる機会を増やしていきました。月に 1 度運営会議を行い、児童への指導方法の統一、運営に関する申し合わせ事項などの打ち合わせを行いました。指導員同士の連携もうまいくようになってきましたが、児童の個別の問題などは児童クラブだけで解決する事は難しい事もありました。

児童利用数は、令和元年度と比べて、延べ人数で 176 人増加しました。令和 3 年 4 月 30 日現在で通年の登録者は 9 名、長期休みのみ登録者は 5 名、合わせると 14 名となります。栗田地区に児童クラブの存在が認知されつつあるようで、新入生の登録が 4 名ありました。学年が上がるにつれて登録者数は減少する傾向にあるため、1 年生～3 年生までの児童の利用が中心となるのではないかと予想しております。

学年内訳

通年 1 年生 4 名 2 年生 2 名 3 年生 3 名

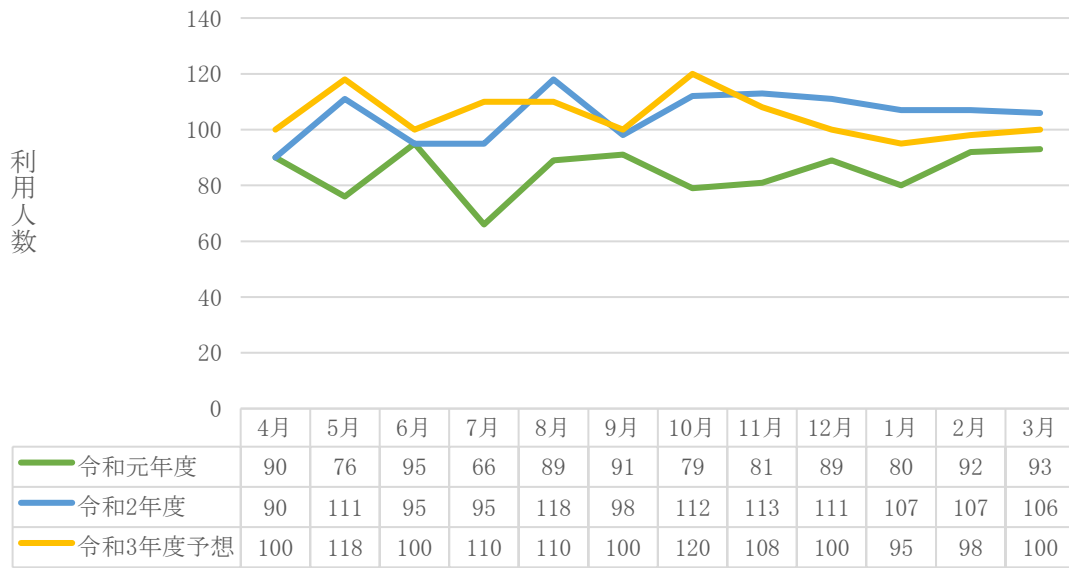
長期のみ 2 年生 2 名 3 年生 3 名



4. 配食サービス事業

令和 2 年度の宮津市配食サービス事業に関しは、令和元年度とくらべて、242 食増加しました。令和 3 年 4 月 30 日現在の登録者は栗田地区 8 名、由良地区 9 名合計 17 名の登録者となります。スーパーや商店がない栗田、由良地区の独居高齢者にとって、配食サービスのニーズは高いものがありますが、独居高齢者が在宅で生活を継続していくこと自体が難しいケースが増えています。新規で登録があっても短期間で入院や施設へ入所となり、利用が中止になってしまい利用者数がどんどん増えていくような事にはなっておりません。令和 3 年度も今年度と同数程度の利用者数と予想しております。

配食サービス延利用人数



5. サービス事業所連絡会議 開催計画

令和2年度の各拠点のサービス拠点同士の交流を目的に行う連絡会議については、新型コロナウイルスの発生に伴い、集まって行う会議の開催は中止し、Zoomを使用したWeb会議を開催いたしました。移動時間の短縮にもなり慣れてしまえば特段問題なく意見交換を行う事ができました。一部カメラや音声の設定に不備があるところもあったので今後は、環境整備が必要です。

令和2年度サービス連絡会議実績

施設相談員連絡会議 令和2年7月 令和3年1月開催

調理・栄養部門連絡会議 令和2年10月開催

通所介護連絡会議 令和2年11月開催

訪問介護連絡会議 令和2年12月開催

6. 府有未使用資産の利活用事業

令和2年度に職員寮について宮津市と相談を行う中、宮津市の市営住宅の空き部屋を活用できないかという案も出てきており、他法人との連携も含めて検討を継続しております。京都府職員住宅（宮津寮）につきましては、京都府が倉庫に使用されている状況との事で利活用については検討を保留している状況となっております。

財務課

令和2年度は、総合在宅支援天橋園整備事業、更には特養天橋の郷空調設備更新事業と大規模な事業が実施され、それぞれの事業での取得資産、補助金、長期借入金、また処分すべき財産について、適切な処理を行いました。

資産・負債のバランスは、今後の北星会の経営に大きく影響するとともに、今後実施される特養与謝の園移転・新築事業にも関係することから、財務状況の十分な把握に努めるとともに、資産運用等も含めた提案を行っていきたいと考えます。

また日々の財務管理については、昨年度同様、各施設の経理担当者と連携を取りながら拠点間の整合性を保つことに努めました。

1. 会計処理

- ・令和元年度決算の精査及び令和2年度補正予算の試算、並びに令和3年度予算統括を行いました。
- ・総合在宅支援天橋園整備事業に係る資産・補助金・長期借入金処理と解体処分資産の計上を行いました。
- ・天橋の郷空調整備事業に係る資産・補助金と解体処分資産の計上を行いました。

2. 経営分析

- ・法人全体の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の計算と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ・各拠点の収支状況の把握と年度費用の見通し予測を行い、収支状況の把握に努め、施設長会議等管理者へ情報を提供しました。

3. 情報開示

- ・法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、令和2年度決算の状況を開示しました。
- ・財務諸表等電子開示システムを通じて、令和元年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

4. 総合在宅支援天橋園整備事業に係る資金管理

- ・令和元年度に引き続き、整備事業費の精査および資金調達（法人内資金調整・借入金調整等）を行いました。
- ・各種補助金の申請、業者支払と補助金請求・入金の調整、実績報告書等各機関への報告を行いました。

法人本部関係業務実績

年	月	日	業 務 事 項
令和 2 年	4 月	1 日	新規採用職員 辞令交付 オリエンテーション
		7 日	北星会施設長会議
		10 日	本部会議
		13 日	北星会 職員代表者会議
		14 日	グループホーム天橋の家 運営推進会議(書面開催)
		17 日	与謝も園移転建替え事業 与謝野町と協議
		21 日	北星会施設長会議
		22 日	本部事務局運営委員会
		24 日	本部会議
		27 日	本部会議
	5 月	7 日	北星会新監事就任依頼
		12 日	北星会施設長会議
		14 日	本部会議
		〃	北星会 指名業者選定委員会
		19 日	与謝の園移転建替え事業 新区長への挨拶
		21 日	業務集中化検討会議
		22 日	本部会議
		26 日	北星会施設長会議
		27 日	本部事務局運営委員会
		28 日	本部会議
	6 月	1 日	北星会 法人内部監査(与謝の園・なぎさ苑)
		2 日	北星会 法人内部監査(天橋の郷・本部及び天橋園)
		5 日	人事給与検討会議
		9 日	北星会施設長会議
		〃	GH 天橋の家・ハウゼ天橋 合同運営推進会議(書面会議)
		10 日	北星会第 1 回理事会
		12 日	本部会議
		〃	宮津市企業人権役員会
		19 日	人事給与検討会議
		23 日	北星会施設長会議
		24 日	本部事務局運営委員会
		29 日	本部会議
	7 月	〃	北星会第 1 回評議員会
		3 日	人事給与検討会議
		〃	宮津市高齢者保健福祉計画推進協議会
		7 日	北星会施設長会議

		〃	評議員選任解任委員会
		10 日	本部会議
		〃	与謝の園移転建替え事業 与謝野町と協議
		17 日	宮津市施設長会議
		20 日	人事給与検討会議
		21 日	北星会施設長会議
		22 日	本部事務局運営委員会
		28 日	本部会議
		〃	宮津市障がい者自立支援協議会
令和 2 年	8 月	4 日	北星会施設長会議
		4 日	グループホーム天橋の家 運営推進会議(書面開催)
		7 日	与謝の園移転建替え事業 与謝野町と協議
		10 日	本部会議
		18 日	北星会施設長会議
		21 日	本部会議
		26 日	本部事務局運営委員会
		27 日	宮津市高齢者保健福祉計画推進協議会
	9 月	4 日	事業拡大に伴う職員採用面接試験
		8 日	北星会施設長会議
		11 日	本部会議
		14 日	北星会 指名業者選定委員会
		16 日	本部会議
		22 日	北星会施設長会議
		23 日	業務集中化検討会議
		〃	本部事務局運営委員会
		24 日	与謝の園移転建替え事業 与謝野町と協議
		25 日	法人研修「感染症予防」 福野初夫氏 天橋の郷にて
		29 日	宮津市地域福祉計画会議
	10 月	1 日	本部会議
		6 日	北星会施設長会議
		〃	与謝の園移転建替え事業 与謝野町と協議
		8 日	北星会 調理連絡会議 Zoom にて
		13 日	業務集中化検討会議
		〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議(書面開催)
		16 日	宮津市高齢者保健福祉計画推進協議会
		20 日	北星会施設長会議
		21 日	与謝の園移転建替え事業 与謝野町と協議
		23 日	本部会議
		27 日	北星会 会計担当者会議

令和 2 年	11 月	28 日	本部事務局運営委員会
		29 日	給与規程改定検討会議
		3 日	北星会施設長会議
		4 日	宮津市企業人権協議会 役員会
		12 日	本部会議
		〃	北星会 デイ連絡会議 Zoom にて
		17 日	北星会施設長会議
		18 日	故吉岡均二名誉理事長 通夜
		19 日	故吉岡均二名誉理事長 葬儀
		25 日	本部事務局運営委員会
11 月	12 月	28 日	在宅総合支援 天橋園 竣工式 新型コロナ感染拡大防止の 為、中止。
		30 日	法人職員研修会「身体拘束の排除」福野初夫氏 Zoom にて
		1 日	本部会議
		4 日	給与規程改定検討会議
		8 日	北星会施設長会議
		〃	GH 天橋の家・ハウゼ天橋 合同運営推進会議(書面会議)
		〃	理事長通達会議 全職員対象 Zoom にて
		15 日	本部会議
		〃	理事長通達会議 与謝の園 Zoom にて
		22 日	北星会施設長会議
令和 3 年	1 月	23 日	本部事務局運営委員会
		〃	北星会第 2 回理事会
		25 日	北星会本部職員採用面接試験
		4 日	宮津市賀詞交歓会 新型コロナ感染拡大防止の為、中止。
		6 日	本部会議
		12 日	北星会施設長会議
		13 日	給与規程改定検討会議
		14 日	北星会 入所施設相談員 連絡会議 Zoom にて
		20 日	理事長 施設長 会議 天橋の郷施設長選任について
		21 日	本部会議
2 月	2 月	26 日	北星会施設長会議
		27 日	本部事務局運営委員会
		3 日	本部会議
		5 日	給与規程改定検討会議
		9 日	北星会施設長会議
		〃	グループホーム天橋の家 運営推進会議
		12 日	宮津市高齢者保健福祉計画
		14 日	本部会議

令和3年	3月	〃	北星会 居宅介護支援事業所連絡会議
		〃	給与規程改定検討会議
		19日	京都府指導監査 監査対象；法人
		23日	北星会施設長会議
		24日	本部事務局運営委員会
		2日	本部会議
		9日	北星会施設長会議
		16日	本部会議
		23日	北星会施設長会議
		24日	本部事務局運営委員会
		〃	北星会第3回理事会
		30日	北星会第2回評議員会

評議員会開催状況

開催年月日	議 題
令和2年 6月29日	1. 令和元年度 社会福祉法人北星会決算報告（案）について 2. 北星会監事退任に伴う後任監事候補者の推薦について
令和3年 3月30日	1. 令和2年度社会福祉法人北星会 資金収支補正予算（案）について 2. 令和3年度社会福祉法人北星会 事業計画（案）について 3. 令和3年度社会福祉法人北星会 資金収支予算（案）について 4. 与謝の園移転・新築計画について 5. 社会福祉法人北星会役員等報酬規程の一部変更（案）について

理事会開催状況

開催年月日	議 題
令和2年 6月10日	1. 令和元年度 社会福祉法人北星会事業報告（案）について 2. 令和元年度 社会福祉法人北星会決算報告（案）について 3. 北星会監事退任に伴う後任監事候補者の推薦について 4. 北星会評議員退任に伴う後任評議員候補者の推薦について 5. 任期満了に伴う北星会評議員選任・解任委員会 次期委員の選任について 6. 北星会苦情解決第三者委員会委員の選任について

令和 2 年 12 月 23 日	1. 社会福祉法人北星会 基本財産の追加について 2. 社会福祉法人北星会 法人クレジットカード利用取扱規程の制定について
令和 3 年 3 月 24 日	1. 令和 2 年度社会福祉法人北星会 資金収支補正予算（案）について 2. 令和 3 年度社会福祉法人北星会 事業計画（案）について 3. 令和 3 年度社会福祉法人北星会 資金収支予算（案）について 4. 任期満了に伴う社会福祉法人北星会次期評議員の選任候補者の推薦について 5. 社会福祉法人北星会 施設長および事務局長の変更について 6. 与謝の園移転・新築計画について 7. 社会福祉法人北星会 諸規程の改定（案）について 8. 社会福祉法人北星会役員等報酬規程の一部変更（案）について

監査について

・北星会監事監査

- 1 日 時 令和 2 年 6 月 1 日（月）・2 日（火）
- 2 場 所 特別養護老人ホーム天橋園 特別養護老人ホーム与謝の園
特別養護老人ホーム天橋の郷 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑
- 3 監査員 川瀬 明 監事 ・ 竹内 明 監事
- 4 監査対象

本部・天橋園関係	与謝の園関係
北星会本部 特別養護老人ホーム天橋園 天橋園短期入所生活介護 天橋園通所介護 天橋園居宅介護支援 天橋訪問介護 ハウゼ天橋通所介護 グループホーム天橋の家 天橋園診療所 ※介護予防・障害福祉含む	特別養護老人ホーム与謝の園 与謝の園短期入所生活介護 与謝の園通所介護 与謝の園居宅介護支援 与謝の園訪問介護 与謝の園訪問入役介護 与謝の園診療所 ※ 介護予防含む

天橋の郷関係	なぎさ苑関係
特別養護老人ホーム天橋の郷 天橋の郷短期入所生活介護 天橋の郷通所介護 ※ サテライト事業所含む はまなす苑通所介護 ※ 介護予防含む	介護老人保健施設 リハ・ヴィラなぎさ苑 なぎさ苑短期入所療養介護 なぎさ苑通所リハビリテーション なぎさ苑訪問リハビリテーション なぎさ苑居宅介護支援 ※ 介護予防含む

・社会福祉法人指導監査（京都府）

- 1 日 時 令和３年２月１９日（金）
- 2 場 所 特別養護老人ホーム天橋園
- 3 監査員 京都府丹後保健所福祉課
- 4 監査対象 法人本部

5 監査結果

[法人運営]

理事及び監事に対する報酬等について、定款に従い、評議員会において報酬の総額を定めること。

[経理]

経理規程に基づき、統括責任者は、各事業区分合計及び法人全体の月次試算表を作成し理事長に提出すること。

6 改善報告（令和３年３月３１日）

[法人運営]

令和３年３月３０日開催の評議員会において、理事及び監事の報酬総額を定め、「北星会役員等報酬規程」に明記しました。

[経理]

月次試算表は各拠点区分では作成しておりましたが、法人全体ではできておりませんでした。

今後は各事業区分合計及び法人全体の月次試算表を法人本部事務局で作成し、理事長に提出するよう改善いたします。

令和2年度 社会福祉法人北星会

総合在宅支援 天橋園 事業報告書

【年度統括】

○重点項目

天橋園は令和3年1月にリニューアルオープンし、認知症介護に重点を置きながら事業展開を図るとともに、地域住民の方により身近な事業所となるように努めました。

○中長期目標

この宮津地域に必要なサービスを宮津市・北星会の各施設事業所と共に考え、地域包括ケアシステムの一翼を担うように、天橋園拠点区分内の各事業を進めていきます。

(報告事項)

令和2年度は新型コロナの影響等で、地域にとって必要なサービスを検討するに至りませんでした。

令和3年度は、コロナ禍の現状を職員確保の好機ととらえ、現事業の充実と拡大を模索し、宮津市の地域包括ケアシステムの一翼を担うよう努めます。

○年度目標

- ①建て替え後のデイサービスと認知症デイサービスの業務内容について、効率よくサービスが提供できるように事業展開について準備し進めていきます。

(報告事項)

工事完了が5月となり、専用の玄関が利用できない等ハウゼの運営に影響を及ぼしましたが、各通所事業所では職員の兼務、施設設備の共用等を進め、効率化に努めています。

- ②各事業においても認知症ケアについて見直し、より良質なサービス提供に努めています。

(報告事項)

認知症の方にご利用いただける施設である。ということは、地域においても認めていただけています。今後は、新しい施設能力を生かしつつ、ご利用者、ご家族の気持ちを慮ったサービスを提供できるよう職員能力の向上を図ります。

- ③天橋園拠点区分内においては本部業務と天橋園の事務について有効に効率良く業務が遂行できるように順次検討し進めていきます。

(報告事項)

現状、天橋園の業務を本部に依存する部分が多い状況です。令和3年度は、天橋園拠点内の事務分掌等を明確にし、各主任を中心に全職員が様々な役割を担うことで天橋園の運営に関与している。という意識を持ち、業務効率化を図ります。

○各事業所の状況

令和2年度は、天橋園の新設移転や新型コロナの影響により、すべての事業所が実績を

落とす結果となりました。そのような状況で、職員の退職者が出ても補充がかなわず少ない人数で勤務しておりました。

令和３年度は、全職員が天橋園群の事業計画と予算を理解し、実績を上げる努力を自分事とすることに努めます。そして、余裕を持った職員配置やシステム導入により、職員がポジティブに勤務でき、より質の高いサービスを提供できるよう“余裕”を持ちたいと考えます。

【事業報告】

１．認知症対応型共同生活介護（グループホーム天橋の家）

令和２年度においては、１２月の新施設開設に伴い、新規入居者９名を１月末までに段階的に受け入れ、利用者１８名の新生活をスタートいたしました。

新職員６名を加えた総勢１４名で、慣れない環境の中、思考錯誤しながらケアを行ってまいりましたが、１月、２月と転倒事故が続き、１名の利用者においては入院後退居という残念な状況となりました。

また３月には、京都府実施の職員ＰＣＲ検査において、陽性者１名が発覚したことで、全力をあげて感染拡大防止に取り組んでまいりました。幸いにも利用者１８名、残りの職員の再検査においても陰性という診断となり、年度末３月３０日までの要観察期間を無事に終了し終息となりました。

令和３年度は新施設開設となった事もあり、ご利用者・ご家族からも満足と安心してご利用して頂きます。またコロナ禍における感染予防対策を徹底し、地域においても存在感のある取り組みを展開できるよう努めてまいります。

①入居者の状況

(ア) 稼働率（定員：９名 ※１２月２０日より１８名へ増床）

区分 年度	営業日数	延入居者数	平均入居者数/日	稼働率
元年度	366	3,290	8.9	99.9%
２年度	365	4,040	11.1	96.1%

(イ) 契約数

区分 年度	新規入居者数	待機者数
元年度	2	17
２年度	11	11

(ウ) 地区別 新規入居者数の状況

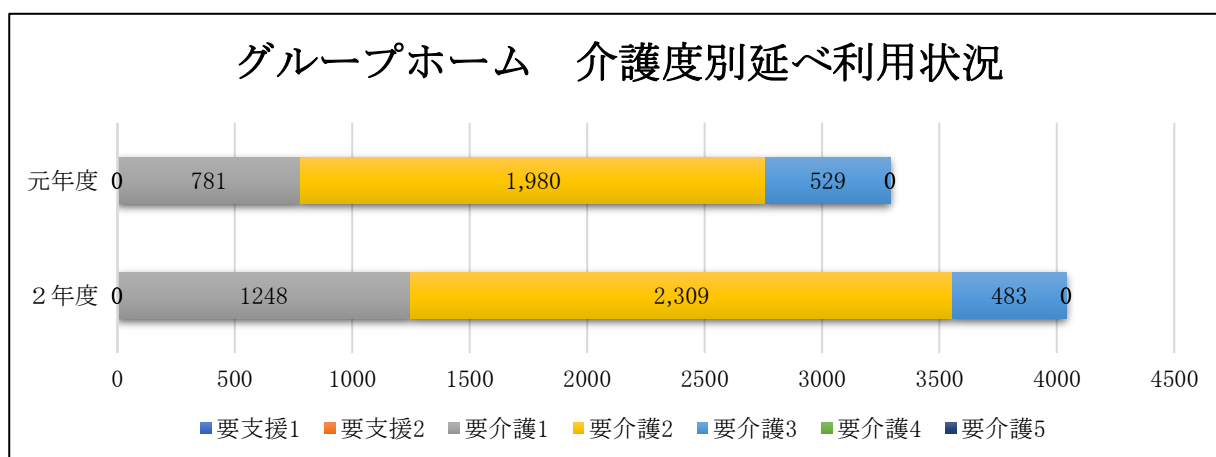
地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
元年度	2	0	0	0
２年度	11	0	0	0

(エ) 要介護度別 入居者の状況（各年度 3月現在）

介護度 性別 年度	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
元年度	0	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	9
2 年度	0	8	1	6	1	2	0	0	0	0	2	16
平均要介護度	元年度				1.9							
	2 年度				1.7							

(オ) 要介護度別 （延入居者数の状況）

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
元年度	781	1,980	529	0	0	3,290
2 年度	1,248	2,309	483	0	0	4,040



2. 通所介護（天橋園通所介護事業所）

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策に終始しました。普段からマスク装着の習慣のないご利用者や、認知症からマスク装着の必要性を理解できないご利用者への装着には、厳しいものがありましたが、毎日、毎回繰り返しの声掛けで現在は、送迎、ご利用中のマスク装着率は100%となっています。また、ご家族に対しても体温測定やマスク装着・持参を再々お願いし、ご協力頂けるようになりました。

認知症利用者の増加により、常時見守り・介助が必要となり、午前中小グループで実施しなければならない個別機能訓練が計画通り実施出来ていないのが実情です。またハウゼとの入浴設備の共用のため、入浴が午前中では終了せず午後からも入浴介助に職員が必要となっているため午後からのレクリエーションにも影響が出ているのが今後の大きな課題と思います。

年度末には雇用半年経過し、慣れて来られたパート職員の突然の退職で、職員への業務負担は大きかったです。各職員の協力により、連携よく業務に当たれたことに感謝しています。

令和3年度も、ご利用者の皆様に少しでも楽しい時間を提供できるよう職員一同更に努力し、職員間はもちろん他の事業所とも連携良く業務にあたりたいと考えています。また、新規利用者の受け入れや各居宅介護支援事業所との連携を密にし、利用回数の増加や新しい加算の算定にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	利用定員/日	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
元年度	25	311	6,540	84.1 %	1.5
2年度	25	309	6,223	80.6 %	1.5

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(イ) 要介護度別利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
元年度	2,188	2,410	458	100	136	5,292
2年度	2,267	1,816	620	180	243	5,126

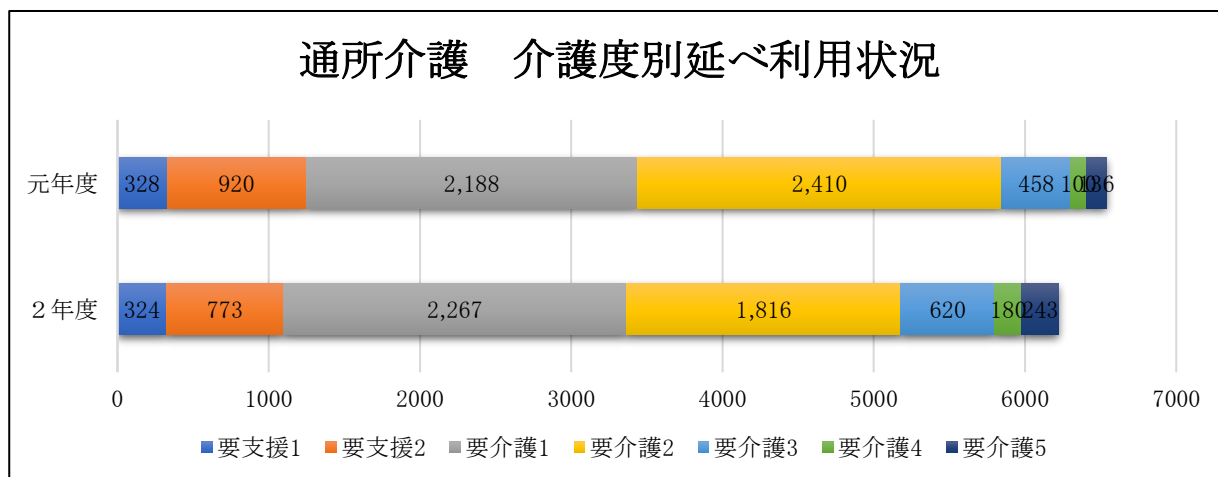
(ウ) 要介護度別利用者数の状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2	合計
元年度	328	920	1,248
2年度	324	773	1,097

(エ) 加算算定の状況

加算項目 年度	機能訓練Ⅰ	機能訓練Ⅱ	入浴	体制Ⅰ 1	処遇改善Ⅰ	特定処遇Ⅰ
元年度	0	4,462	4,821	5,376	747	364
2年度	2,323	5,111	4,640	5,111	714	714

※機能訓練Ⅰ…令和2年6月より算定



3. 認知症対応型通所介護（ハウゼ天橋通所介護事業所）

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられる様に、ご利用者の認知症状の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。

ご利用者に対し『買い物支援サービス』や『屋外活動支援サービス』また利用時間を融通する事により、ショートステイ等の他のサービス利用を抑え、ハウゼ天橋の利用を継続いただきました。令和2年度は4月に急な退職者によって職員の体制がとれず、スタートから躓きました。その後は体制も整いほぼ例年並みの実績でしたが、冬季になり利用者が体調を崩されるのではなく、介護される家族の死去・入院等で居宅での生活ができなくなり利用中止になるケースが続き、年間の1日平均は10.7人と令和元年度を下回ることになりました。

今後も在宅での暮らしを希望されるご利用者やご家族を支援し、新しくなった施設の利点を生かし、ご利用者の確保と個別サービスに取り組みながら、算定可能な加算は積極的に取り入れていきます。

①利用実績

（ア）延べ利用者数及び利用率

区分 年度	定員	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
元年度	12	259	2,881	92.7%	3.28
2年度	12	259	2,787	89.7%	3.15

（イ）要介護度別 延べ利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
元年度	57	601	1,103	731	389	2,881
2年度	111	846	833	508	489	2,787

（ウ）要介護度別 延べ利用者数の状況 介護予防

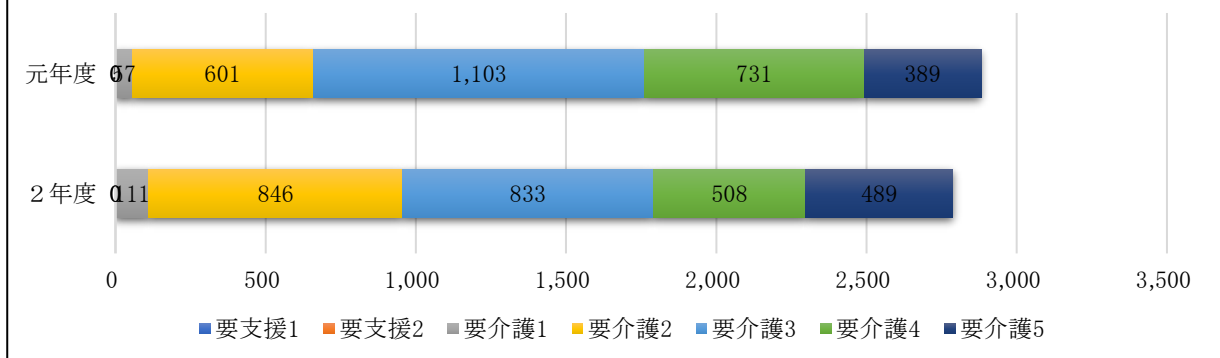
介護度 年度	要支援1	要支援2
元年度	0	0
2年度	0	0

（エ）加算算定件数の状況

加算項目 年度	入浴	体制Ⅰ1	処遇改善	特定処遇	機能訓練
元年度	2,580	2,881	288	146	166
2年度	2,537	2,787	285	285	139

※ 特定処遇（介護職員等特定処遇改善加算）令和元年10月より算定

認知通所介護 介護度別延べ利用状況



4. 訪問介護（天橋訪問介護事業所）

令和2年度は、コロナ禍における訪問介護事業の在り方について、様々な場面において検討を行いました。日々の訪問に関しては、基本的な感染予防を繰り返し確認・徹底し、近隣の感染状況を職員間で共有することで、予定通りの訪問を行うことができました。発熱の続くご利用者宅への訪問やPCR検査を受けられたご利用者宅への訪問は常勤を中心に特定の職員で対応しました。感染予防を理由にご利用者側から訪問を断られることはほとんどありませんでした。他の事業所が感染に伴う休業で訪問できない時には代わって訪問に入ることも積極的に行っていました。

また、毎月行っている例会及び勉強会は感染予防の為に12か月中6回は中止となりました。今後はコロナ禍においても開催できる形を検討していくことが必要だと思っています。

訪問実績につきましては、全体の訪問時間が減少している中で、生活援助の訪問時間は増加し、報酬単価の高い身体援助が大きく減少していることで、事業所の実績としては良い結果を出すことはできませんでした。身体援助が減少した要因として、複数回身体援助で訪問していたご利用者が施設入所となり訪問が中止になることも多かったですが、最期を自宅で看取らせて頂いたご利用者も複数ありました。

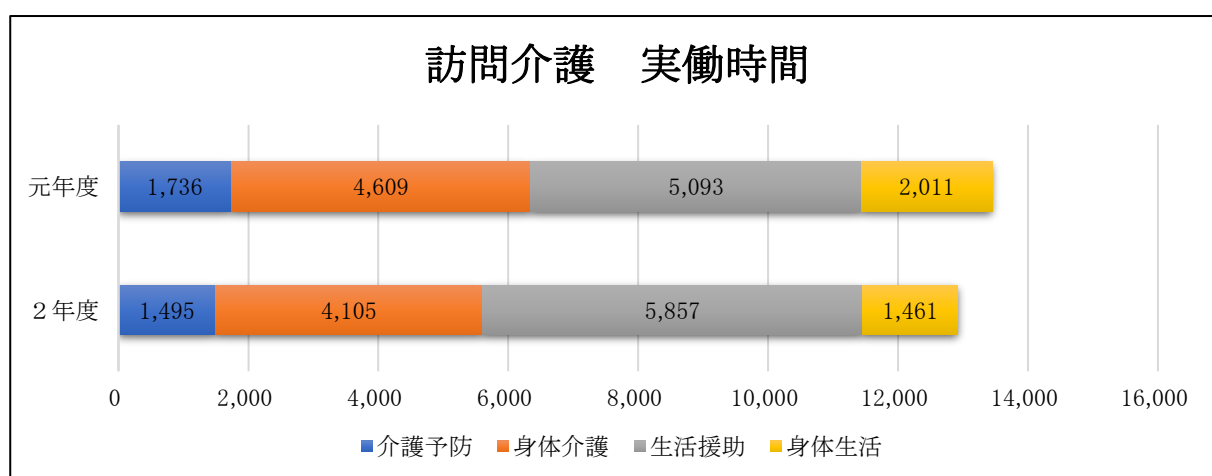
筋萎縮性側索硬化症（ALS）のご利用者の北部医療センターでのレスパイト入院（介護者の休養等を目的とした入院）は、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は実施されず、訪問回数を増やすことで、暮らしを支えることができました。

令和3年度も在宅での生活を少しでも長く、笑顔で過ごしていただけるよう、ご家族、ケアマネ、他事業所と連携を取りながら訪問を行っていききたいと思います。

（ア）介護度別利用者数の状況及び実働時間

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者支援	合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
契約人数(人)	元年度	11	21	41	51	29	26	14	1	194
	2年度	12	20	44	41	42	16	11	0	186

介護予防(h)	元年度	1,736 時間 15 分	13%
	2 年度	1,495 時間 45 分	12%
身体介護(h)	元年度	4,609 時間 30 分	34%
	2 年度	4,105 時間 30 分	32%
生活援助(h)	元年度	5,093 時間 45 分	38%
	2 年度	5,857 時間 15 分	45%
身体生活(h)	元年度	2,011 時間 0 分	15%
	2 年度	1,461 時間 0 分	11%
合 計	元年度	13,450 時間 30 分	100%
	2 年度	12,919 時間 30 分	100%



5. 居宅介護支援（天橋園居宅介護支援事業所）

地域にある在宅介護の窓口として、地域包括支援センターや主治医をはじめ、医療・介護福祉等の関係機関と連携し、望まれる生活をご自宅で安心しておくれるように、サービス調整を行い支援してきました。

ご利用者が新しくサービス利用を開始された時は、必ず事業所へ行き、ご本人と施設スタッフに状況確認をしたり、自宅以外で過ごされている様子をご家族にお伝えしたり、また、入院をされた時は、経過を伺いにご本人と面会し病院スタッフ等と情報交換をしながら、退院に向けてサービス調整を行ってきましたが、今年度は感染症予防対策のため、利用中の面会ができない事業所や入院病棟への出入りができない状況もあり、特に、病院から退院をされる時の情報と退院されたご利用者の状態の違いを感じるケースもあり、足を運びご利用者と面会し状況を確認しながら病院のスタッフの方と情報交換をする大切さと、電話や文書での情報交換や情報共有する難しさを感じる1年となりました。

ケアプラン作成や給付管理に関しましては、担当させていただきご利用者は独居や高齢者世帯が多く、サービス調整をしてもお一人での生活や介護力低下などから在宅生活を長期間維持することが困難であったり、身体状態の変化により入院されるとご家族と同居であっても、介護に対する不安感が強くなり、転院や長期入所を希望されることも少なくな

く、在宅介護サービスの中断や中止をせざるを得ないケースも多かったです。

そのため新規ご利用者を積極的に受けましたが、長期入院や施設入所、亡くなられた方が新規利用者を上回り管理件数は低下しました。

また、他部署と協力しながら地域の方との交流の機会であるオレンジカフェも感染症予防対策のため中止となり、地域ケア会議や宮津市介護支援専門員研究会、各種研修も中止やリモート開催など、慣れない環境で戸惑うこともありました。

カフェが再開されましたら感染症予防対策をしっかり行い、地域とのつながりを大切にしていきます。研修会や地域ケア会議も積極的に参加し、医療や行政、関係機関と連携を密に行い、ケアマネの資質向上を図るとともに、親切丁寧な相談援助に今後も努めて参ります。

①利用実績

(ア) 内容別相談件数

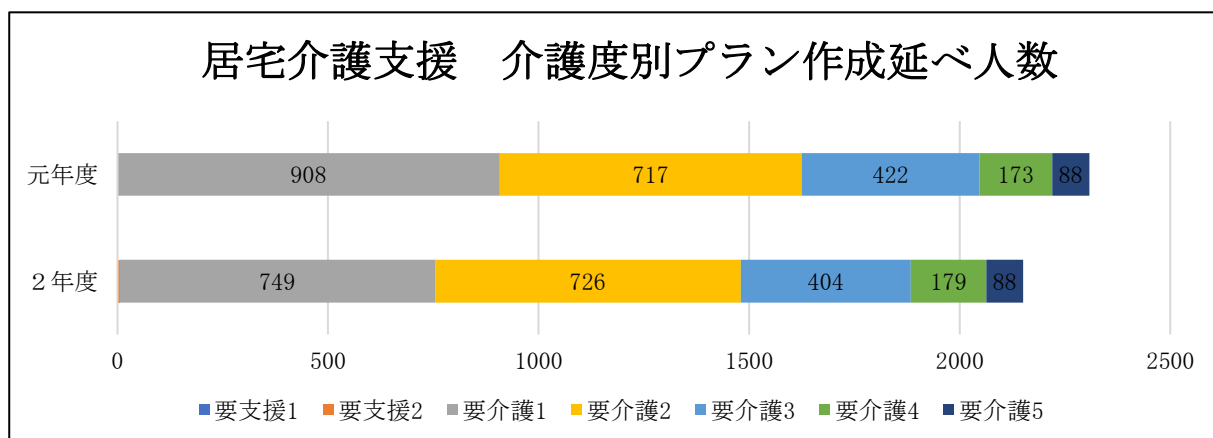
内容 年度		介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
元年度	実数	268	8	3	122	401
	延数	12,227	76	16	5,376	17,695
2年度	実数	252	11	0	120	383
	延数	10,709	80	0	5,226	16,015

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
元年度	2,308	241
2年度	2,151	231

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和元年度	0	0	908	717	422	173	88	2,308
令和2年度	0	5	749	726	404	179	88	2,151



6. 事務

新施設への移転、グループホーム定員の増員に伴い、諸費用の按分負担の見直しを行いました。また、法人本部との統合によりこれまでの事務手続きについても確認しながら、効率良くスムーズに遂行できるように努めました。

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数（パック）
元年度	1,121
2 年度	1,220

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 3 日	52 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 3 日・2 月 18 日	35 人・29 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 18 日	11 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月	35 人	年 1 回

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
健康長寿 運動、減塩生活について 安全衛生委員会研修会	30 名	丹後保健所出前講座を利用し、働き盛り世代の健康づくりについて学ぶ。
感染症におけるリスクマネジメントの考え方	2 名	法人研修 外部講師（リブドゥ）
身体拘束について（WEB 研修）	3 名	法人研修 外部講師（リブドゥ）

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
介護支援専門員実務経験者更新研修課程Ⅱ	3 名	介護支援専門員資格継続の更新研修
若年性認知症支援研修会	1 名	若年性認知症に係る研修
宮津市介護支援専門員研究会	8 名	市内事業所職員の事例検討および情報交換
宮津市地域ケア会議	3 名	要支援者の避難施設について
看取りサポートの人材養成研修	1 名	介護支援専門員会による看取りサポート研修
認知症の人とその家族を支えるためのケアマネジャー育成事業	1 名	認知症利用者及び家族の支援について

宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	2名	施設事業者による高齢者虐待の予防の対応
医療と介護の連携推進研修会	5名	コロナ禍における連携に係る研修会
A C Pにおけるケアマネジャーの役割	2名	ケアマネジメントスキルアップ研修 ZOOM 開催
主任ケアマネフォローアップ研修	1名	主任ケアマネジャー研修
地域共生社会の構築とケアマネの実践	1名	地域共生社会の構築につながるケアマネの実践の理解と地域支援のための働きかけ
宮津市障害者自立支援協議会	1名	障害のある人の避難について
京都府認知症介護実践者等養成研修（基礎研修）	1名	認知症介護の基礎研修
新型コロナウイルス感染症対策研修会	1名	福祉施設等における新型コロナウイルス感染症対策
コロナ禍における医療と介護の連携	1名	高齢者の安心した生活を支援していくために、関係者との連携強化を図り更なる向上を推進していく事を目指す。
身体拘束ゼロ推進研究会基礎研修	2名	身体拘束・不適切ケアをどう廃止するかを考え、理解を深める
虐待防止と身体拘束・行動制限の廃止を考える研修会	1名	福祉施設等におけるリスクマネジメント

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、集合形式の研修会等は中止となりました

（地域事業・総合事業）

事業名	参加者数
宮津小学校認知症サポーター養成講座 11月9日	3

【介護実習等受入状況】

受入れ実績なし

【ボランティア活動状況】

活動実績なし

【各種会議開催状況】

会議名	開催回数／年
業務運営会議 リスクマネジメント委員会 身体拘束ゼロ推進委員会	12回

感染症対策委員会	1 8 回
安全衛生委員会	1 2 回
ヘルパー例会	1 2 回
身体拘束ゼロ推進会議（GH会議内）	1 2 回

令和2年度 社会福祉法人北星会 与謝の園 事業報告書

【年度統括】

開園以来 36 年が経過した従来型施設の与謝の園は、老朽化に加え地盤沈下等による建物構造上の不具合が顕著であり、危機管理や感染症対応をはじめ、安心・安全・安楽で快適な生活環境の設定及び寄り添う介護（個別ケア）の実践が著しく困難な状況にあります。厳しい施設運営を強いられるなか、職員一人ひとりの地道な経営努力とより効率的な事業運営に努めるとともに、ご利用者一人ひとりの「その人らしい生活（暮らし）」を支援できるよう努めました。

令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため咳エチケット、手洗い、アルコール消毒や施設内の消毒の強化、感染症に関する備品（備蓄）のリスト化など基本的な対応に加え、職員も自身の体調管理に努めると共にサービスを安全かつ継続的に提供するために感染症対策の知識を正しく理解し実践できるよう努力しました。その結果、令和1年度の実績と比較して大きく下がることなく、維持または上回った事業所もありました。

特別養護老人ホーム与謝の園は令和5年度の新設移転に向けて、公園の整備、忠魂碑移設等について行政、遺族会、惜別の会及び地域住民の代表者と協議を進めました。また、各部署主任を中心に有志で建て替えに関する委員会を立ち上げ、「地域に暮らす皆さんを支援する事業へ転換するには」を課題として取り組みました。「住み慣れた場所・家で暮らし続けることができる。」という安心感と誰もが気軽に利用いただける施設を目指し、地域コミュニティの”核”となれるよう検討を重ねます。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員：80名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
令和元年度	366	28,611	669床	78.2人	97.7%
令和2年度	365	28,664	536床	78.4人	98.2%

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(イ) 契約数（3月31日時点）

年度 \ 区分	新規入居者	申し込み者	退園者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
令和元年度	22	99	23	20 (17)	3	0	0
令和2年度	22	115	21	17 (14)	2	2	0

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(ウ) 地区別 入居状況 (3月31日時点)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
令和元年度	3	72	3	0	78
令和2年度	3	76	1	0	80

(エ) 年齢・性別 入居状況 (3月31日時点)

年齢 性別 区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
令和元年度	0	0	0	0	4	4	2	20	2	38	0	8	8	70	78
令和2年度	0	0	0	0	4	3	2	18	2	42	0	9	8	72	80
平均年齢	令和元年度		男性		82.1		女性		92.1		合計		91.1		
	令和2年度		男性		81.1		女性		92.3		合計		91.2		

(オ) 入居期間別 入居状況 (3月31日時点)

期間 区分	6か月未満		6か月以上 1年未満		1年以上 3年未満		3年以上 10年未満		10年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
令和元年度	0	10	1	9	6	21	1	26	0	4	8	70	78
令和2年度	2	9	2	6	2	31	2	22	0	4	8	72	80
平均入居期間	令和元年度		3年1か月										
	令和2年度		3年3か月										

(カ) 入居期間別 延べ入居状況 (特養)

期間 性別 年度	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		合計
	男	女	男	女	男	女	
令和元年度	1	13	1	10	5	26	合 計
令和2年度	2	9	2	9	5	34	
期間 性別 年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	
令和元年度	3	36	0	9	9	93	103
令和2年度	3	29	0	5	12	86	98

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(キ) 介護度別 入居状況 (3月31日時点)

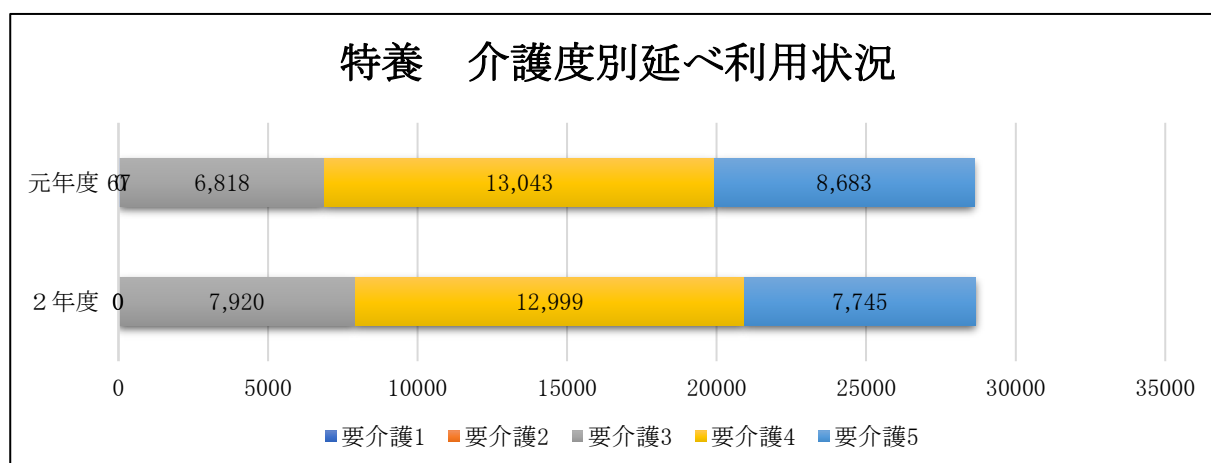
介護度 性別 区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
令和元年度	0	0	0	0	1	21	5	29	2	20	8	70	78
令和2年度	0	0	0	0	1	24	5	30	2	18	8	72	80
平均要介護度	令和元年度				4.06								
	令和2年度				3.94								

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
令和元年度	67	0	6,818	13,043	8,683	28,611
令和2年度	0	0	7,920	12,999	7,745	28,664

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

※高齢者虐待防止法による措置（要介護 1）1 名受け入れ（令和元年 1 月 16 日～令和 2 月 27 日）



2. 介護部

令和2年度は、ご利用者が「自分らしく」暮らしを継続していくために、尊厳ある暮らしを第一に考え、一人ひとりに寄り添う個別ケアの提供に努めました。ご利用者・ご家族のニーズも多様化しており、リスクへの対応・情報の共有化・きめ細やかな個々に合わせた対応がますます重要となっています。次年度もご利用者一人ひとりが「自分らしい暮らしが出来るように」、「自分らしくある為に」を実現できるように、生活の質の向上・利用者に寄り添うケアに努めながらユニット型特養への建て替えに向けての意識改革、専門的知識の向上に努めたいと思います。新型コロナウイルスに対し感染予防策を徹底して行いご利用者の健康管理だけでなく介護員自身の健康管理を継続します。

- (ア) 各ユニットでは、ユニットごとに具体的な目標を挙げ、ユニット会議時や日々の意見交換をもとに、ご利用者の日々変わる状態把握を行い、一人ひとりに添ったご利用者主体のケアが実践できるように、ユニット職員間での情報の共有化に努めました。また、ユニット目標を達成するためには、どうすれば取り組めるか、取り組めているのかなどプロセスの検討や評価もその都度行いました。
- (イ) ご利用者との関わりを通し、入浴・排泄・食事形態・口腔ケア、ポジショニング、シーティングの見直しをはじめ、個々の意向に添ったレクリエーション活動の実施、また、誕生日には、好物を聞き、職員・他のご利用者と共に一緒にお祝いをし、「その人らしさ」「自分らしさ」「信頼感」を大切にして取り組みました。
- (ウ) 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、面会、園での行事等に関しては、中

止となることが多く、今まであたり前として取り組めていたことが実施できない日々でした。その中で、家族に会えないご利用者の気持ち、ご家族の気持ちを考え、園での全体での取り組みの様子を定期的に機関紙として発行すると共に居室担当者から個々のご家族にお便りを送付し、ご家族との繋がりを大切にしました。

- (エ) サービスの質の向上のため、各種委員会活動、部会活動をはじめ、委員会開催の施設内研修、外部への施設外研修に参加し、認知症等の専門的知識の向上に努めました。また、ユニット会議内においては、「吸引について」「不適切ケアについて」「パルスオキシメーター使用について」などの専門的な知識の向上と再確認、「パットの当て方について」「接遇・言葉使いについて」「利用者の把握と伝え方(報連相)」についてなどの介護技術において基本的なことの再確認を行いました。
- (オ) ユニット型特養への建て替えに向けて、介護員として建て替えについて、ソフト面、ハード面の検討、意識の改革を勉強会・意見交換を通して取り組みました。その中で、ユニット配膳を経験し個別処遇について学びました。
- (カ) 看取りケアに力を入れる為に、「看取り」についての理解を深め、職員間の意識の統一に努め、ユニット内で、その人らしい看取りケアの充実を図りました。今年度は、亡くなった後に各ユニット会議内でデスカンファレンスも取り組んでいきました。

3. 相談部

新型コロナウイルス流行がボランティアの受け入れなどの障害となりました。またご家族との面会を制限しなければならず、ご利用者や施設との関係維持のための方策が課題として残りました。次年度も引き続き改善に取り組んでいきます。

入所の相談について、宮津市、その他地区からの申し込みが増加しています。特徴としては、骨折などにより入院し病院から入所の申し込みを勧められ近隣の施設に対し申請に至るケースが目立ちました。

また退去者数は昨年と大きく変わりませんが、施設内看取りに取り組んだ結果、加算の算定者数は安定しています。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
令和元年度	93	260	72	1	0	426
令和2年度	116	240	64	2	0	422

(イ) 待機者数(地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
令和元年度	12	63	9	9	93
令和2年度	32	82	9	18	141

(ウ) 待機者数（介護度別）

介護度 年度	要支援・他	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
令和元年度	0	3	1	51	25	13	93
令和 2 年度	0	0	0	52	41	48	141

(エ) 退去状況 （特養）

退去先 年度 区分		自宅・家族宅	園内で死去 (看取りによる死亡)	医療機関で死去	その他 医療機関（入院）等	合 計
元年度	人数	0	20 (17)	0	3	23
	比率	0%	87% (74%)	0%	13%	100%
2 年度	人数	0	17 (14)	2	2	21
	比率	0%	81% (66%)	9.5%	9.5%	100%

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

4. 給食部

- ・昨年に比べ、ゼリー食、ミキサー食提供の全体に占める割合が低くなり通常形態の食事提供が増加しました。新型コロナウイルス感染が拡大する中で、外出の制限、家族との面会の制限など楽しみが少なくなる中でご利用者の楽しみの一つになる様、日々、試行錯誤しながらの提供に努めました。
 - ・新型コロナウイルス対策として、備蓄の充実、緊急時の対応について検討しいざという時にはスムーズに動けるよう準備を進めました。この点についてはまだまだ不十分な事も多いため次年度も引き続き取り組みます。
 - ・看取りケアとしては厨房職員も「看取り」について学び、最期まで口から食べる喜びを感じてもらえるような食事提供ができるよう取り組んできました。
 - ・「栄養ケア」に基づき、糖尿食・減塩食など特別食の提供や、利用者一人一人の状態や体調・嗜好に応じた個別的な食事提供にも引き続き力を注いできました。通所介護・短期入所者においても、健康状態や嗜好などに応じた個別対応をはじめ、利用者が楽しく食事ができ、なお且つ栄養改善が図れるよう努めました。
- その他「安心・安全な食事提供」を前提に、施設内や厨房内の衛生管理・職員の体調管理を徹底し、食中毒や感染症などの発生予防に努めました。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	特養	短期入所	通所	合計
令和元年度	85,647	7,536	6,004	99,187
令和 2 年度	85,641	6,822	5,967	98,430

(イ) 栄養基準（１日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,300～ 1,500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
令和元年度	1,408	56.7	453	32.4	6.4	725	0.61	1.41	68
令和２年度	1,418	56.3	470	33.6	6.6	703	0.66	1.47	68

(ウ) 食品群別摂取量（１人１日当たり食糧構成）（単位：g）

群 類 区 分	1 群		2 群						3 群					4 群		
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獸鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌	堅果類	綠黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦	油脂
基 準	180	50	60	40	40		10	1	100	150	80	100	7	120	70	7
今年度平均	181	30	56	41	61		—	0.5	88	166	63	39	3.2	123	82	4.1

*味噌は豆類・大豆製品に含みます

5. 看護部

コロナウイルス感染が拡大し、面会の中止や感染対策の徹底など感染症予防対策を進めました。そのような中でも、ご家族やご利用者のニーズに添った看護の提供を心がけました。

日頃から、体調維持のため、疾病の予防・異常の早期発見・早期対応に努めました。今年度も看護職員担当制を敷き、ご家族に対しこまめに情報提供を行い、信頼関係の構築に努めました。しかしご家族に状態の変化を理解してもらえないケースもあり、伝え方について今後の課題となりました。

今年度も、受診の待ち時間や移動の負担を考慮し、往診を多く取り入れ、ご利用者がいつもの環境で負担なく診療を受けてもらえるよう工夫しました。

今後はますますニーズが多様化していくことが予想されます。特に、施設での看取りを希望される方が増えていくと思われますので、積極的に取り組んでいきたいと思ひます。

6. 短期入所

今年度は、新型コロナウイルス流行に伴いベッドコントロールに制約が生じ、ご利用者のご希望に添えないことがありました。緊急受入についても同様で、その結果が今年度のベッド稼働率に表れています。残念ながらこの状況は今後も続きますので、ベッド稼働率は今後も今年度並みの数字で推移するものと考えます。ご利用者については、なじみのご利用者のご利用日数が増えています。これは今まで目標としてきた看取り期にあるご利用者の積極的な受け入れがおこなえていると評価できるものと考えます。看取り期にあるご利用者の受け入れに取り組み始めた頃は、何をすべきか、どのように

対応すればよいのかがわからず不安要素が多くありましたが、受け入れを重ねるうちにノウハウが蓄積され、今年度も複数の看取り期にあるご利用者を最期に近い時期まで長く受け入れることができました。新型コロナウイルスがなければもう少しは柔軟な受け入れができていたと思います。ほかの目標については達成できたものと考えます。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員：10名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
令和元年度	366 日	3,296 人	9.0 人	90.4%
令和2年度	365 日	3,172 人	8.7 人	86.9%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
令和元年度	30 人
令和2年度	19 人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
令和元年度	0 人	73 人	0 人	0 人
令和2年度	0 人	67 人	0 人	1 人

(エ) 介護度別 入所状況

年度 \ 介護度 性別	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和元年度	4	4	4	14	2	27	0	10	6	5	16	60
令和2年度	1	8	4	11	8	26	2	8	4	7	19	60
平均要介護度	令和元年度				2.97							
	令和2年度				2.99							

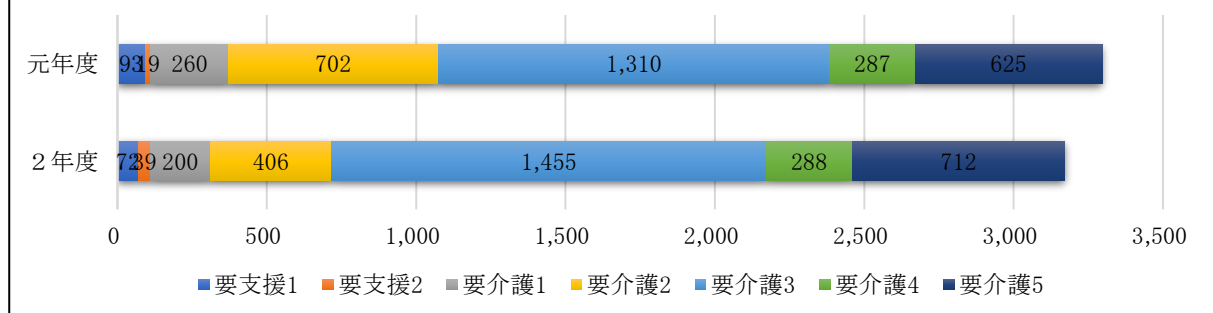
(オ) 要支援度別 入所状況

年度 \ 介護度	要支援1	要支援2
令和元年度	3	3
令和2年度	2	1

(カ) 介護度別 延入所状況

年度 \ 介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和元年度	93	19	260	702	1,310	287	625	3,296
令和2年度	72	39	200	406	1,455	288	712	3,172

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 通所

職員一人ひとりが自己管理を行い、新型コロナウイルスを持ち込まないようにと私生活でも注意を払い過ごした1年間でした。新型コロナウイルスの対策を行いご利用者のニーズやご家族の意向を尊重し満足度の高いサービスの提供に努めました。

令和2年度は、施設への長期入所や老人保健施設の利用等により、複数回利用者の減少もありましたが、包括支援センターや各居宅介護事業所との連携により、要支援者・要介護者共に多くの新規利用者の受け入れを行うことが出来ました。延べ利用者数・平均利用率共に微量ではありますが、前年度を上回る結果となりました。年間延べ利用人数（前年実績比：20名増の6,121名）・1日平均利用率（82.3%）も、令和1年度実績を上回ることができました。今後も引き続き、業務の見直し・改善を図り、与謝の園通所介護事業所としての特色を出しつつ、ご利用者のニーズに応じたサービスが提供できるように努めます。

①利用実績

(ア) 要介護者

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
令和元年度	24名	311日	5,176名	69.3%	2.4
令和2年度	24名	310日	5,031名	67.6%	2.3

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

イ) 介護予防事業 要支援者

介護度 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
令和元年度	24名	311日	925名	12.4%	0.88
令和2年度	24名	310日	1,090名	14.7%	0.89

(ウ) 介護度別利用状況

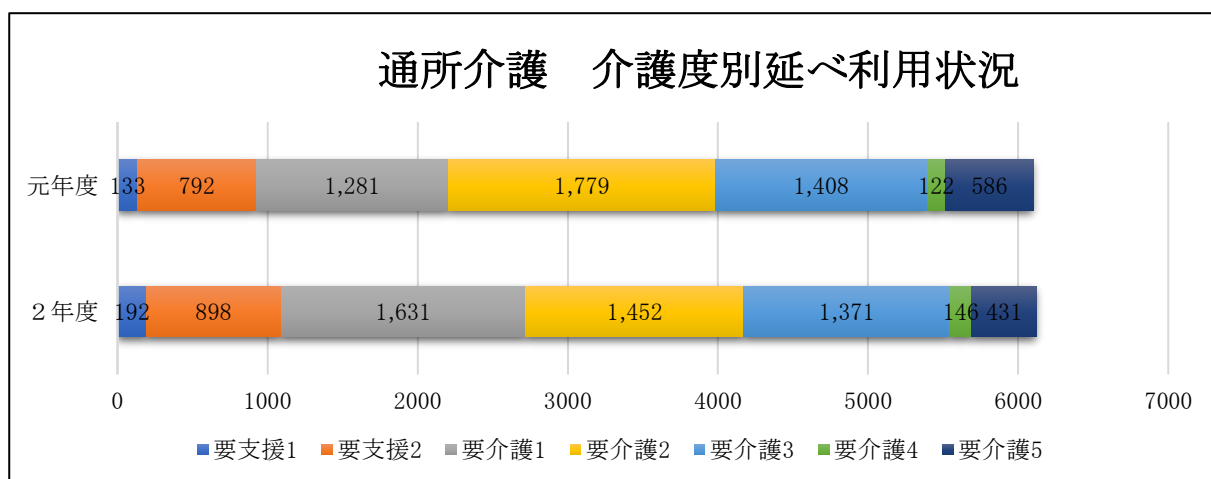
介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和元年度	1,281名	1,779名	1,408名	122名	586名	5,176名
令和2年度	1,631名	1,452名	1,371名	146名	431名	5,031名

(エ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	事業対象者	合計
令和元年度	112 名	792 名	21 名	925 名
令和 2 年度	121 名	898 名	71 名	1,090 名

(オ) 加算の状況

加算項目 年度		入浴加算	送迎減算	提供体制	処遇改善	特定処遇改善
令和元年度	要介護	4,802	357	5,187	721	348
	要支援 1			33	142	71
	要支援 2			113		
令和 2 年度	要介護	4,767	344	5,031	698	698
	要支援 1			50	168	168
	要支援 2			118		



8. 訪問介護

ア 概況

令和 2 年度、新たに職員が 1 人加わり正職員 4 名・登録 2 名となりました。自立した日常生活を営む事が出来るようケアプランに沿って支援する事を毎月の会議等で再度意識するよう統一しました。統一したことにより対応にばらつきが少なくなりました。

新型コロナウイルスが流行し訪問前後の手指消毒の徹底・午前、午後のマスク交換・フェイスシールドの着用等、ご利用者にも説明を行いながら訪問しました。ご利用者にもマスクの装着をお願いするなど更なる予防に努め、ご利用者・ご家族と共に感染対策を意識する事に努めました。

終末期の方への訪問を素早く調整・開始し、ケアマネと連携し状態に合わせた訪問回数・必要に応じた 2 人体制・状態に合わせた訪問時間の調整を行う事ができ、不安を抱えておられるご家族に寄り添った援助を行いました。

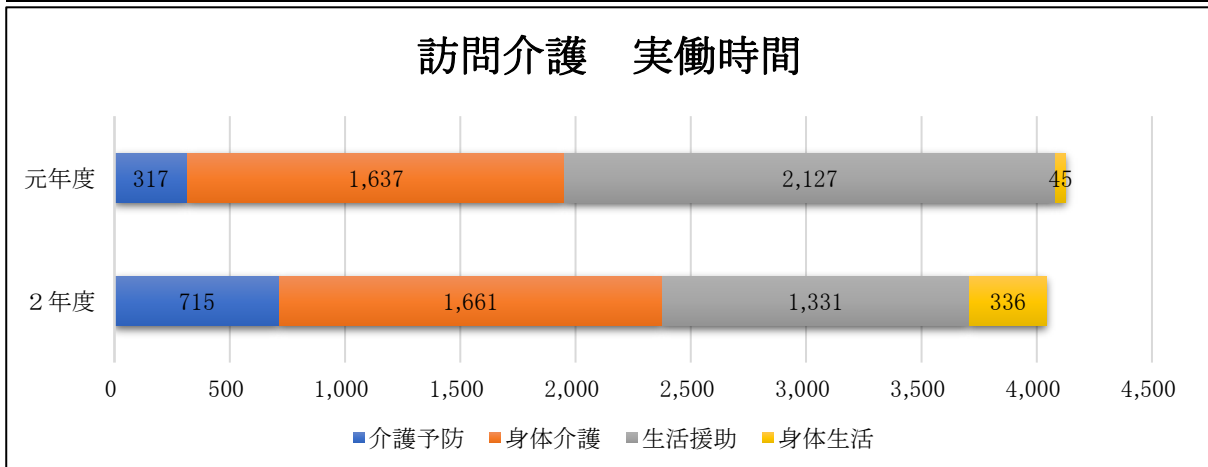
身体介護と生活援助を行う「身体生活援助」が大幅に増加しました。入浴の際、全介助ではなく軽介助もしくは見守りを行いながら室内の掃除を行うことや、買い物をして

からトイレ誘導を行うケースが増えました。

次年度も会議や研修会に積極的に参加し職員の質の向上に努め、ご利用者やご家族から喜んでいただけるよう、自支援に向けた介護サービスの提供に努めていきます。

イ 介護度別利用状況及び実働時間数

	年度	介護予防サービス		介 護 サ ー ビ ス					障害者 支援	合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数 (人)	令和元年度	3	9	11	9	14	3	14		63
	令和２年度	2	10	9	15	15	6	9		66
介護予防 (h)	令和元年度	317 時間 17 分								8%
	令和２年度	715 時間 45 分								18%
身体介護 (h)	令和元年度	1,637 時間 55 分								40%
	令和２年度	1,661 時間 25 分								41%
生活援助 (h)	令和元年度	2,127 時間 25 分								51%
	令和２年度	1,331 時間 05 分								33%
身体生活 (h)	令和元年度	45 時間 30 分								1%
	令和２年度	336 時間 25 分								8%
合 計	令和元年度	4,128 時間 07 分								100%
	令和２年度	4,044 時間 50 分								100%



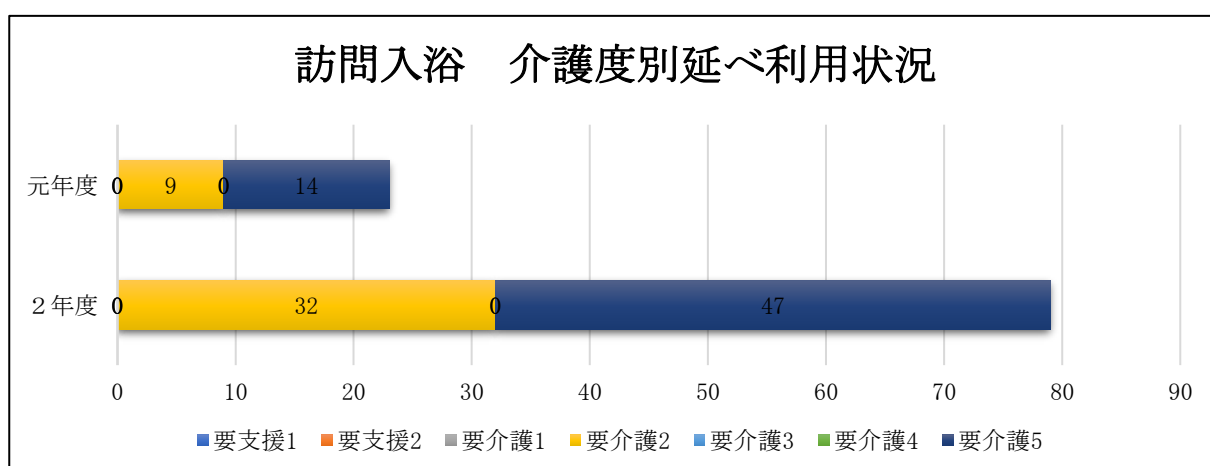
9. 訪問入浴

- ・令和2年度は新規利用者の受け入れが出来たため実施日数、契約者数、利用者数など昨年より増加しました。
- ・新型コロナウイルス感染症の対策をしっかりと行いながら、ご利用者や家族のニーズに対応し、ケアマネ、訪問看護等の事業所と連携を密に行い安心安全で喜んでいただけるサービスを提供した。
- ・訪問入浴の利用者は要介護度の高さだけでなく、疼痛の有無、浴前処置などへの対処が必要であり医療依存度が高い。そのため看護職員の確保が課題である。

①利用状況

		介護予防サービス		介 護 サ ー ビ ス					合 計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
契約人数	令和元年度	0	0	0	1	0	0	1	2
	令和2年度	0	0	0	2	0	0	3	5
実施日数	令和元年度	0	0	0	9	0	0	14	23
	令和2年度	0	0	0	27	0	0	19	46
延利用人数	令和元年度	0	0	0	9	0	0	14	23
	令和2年度	0	0	0	32	0	0	47	79
日平均利用 人数	令和元年度	0	0	0	1.00	0	0	1.00	
	令和2年度	0	0	0	1.19	0	0	2.47	

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。



10. 居宅介護支援

前年度同様、地域包括支援センターや医療関係者、サービス事業所などと連携して対応しました。新規利用者を受け入れたにも関わらず、施設入所や入院などにより給付管理を外れるケースも多くあり、給付管理件数は月当たり127～138件、年間を通しての平均は134件でした。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に追われた1年でした。手指や事業所内、車両の消毒、マスクやフェイスシールドの装着などの基本的な行動に加えて、地域や近隣の発生状況の把握や対応策についての情報収集を行いました。業務においても、あらかじめ電話で体調やサービス利用状況を聞き取り、自宅訪問や担当者会議の開催等の時間短縮と、三密を回避するよう努めました。ご利用者の入退院の際、面会やカンファレンス等直接会って相談することができなかったため、電話やオンラインでのカンファレンス等で家族や連携室と相談調整を行いました。

地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修についても、参加人数の制限や対面ではなくオンラインでの開催が主流になっていますので、事前に事業所内で意見や要望などを集約しておくことで、参加を有意義なものにするよう工夫しました。

次年度も引き続き状況に応じた対策を講じ、与謝野町地域の高齢者やその介護者が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活が継続できるよう、迅速で丁寧な支援を行っていききたいと思います。

(ア) 内容別相談件数

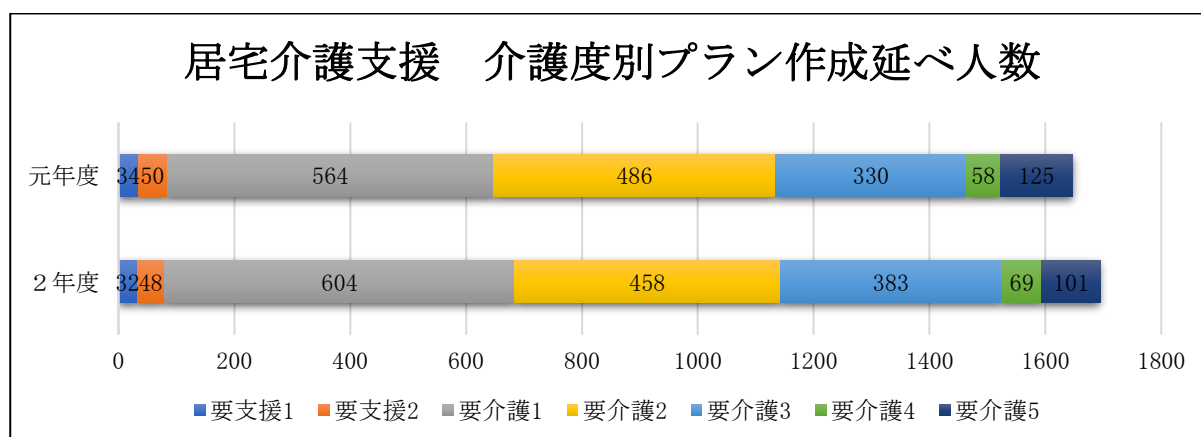
年度 \ 内容		介護保険その他福祉サービス	権利擁護(成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
令和元年度	実数	216	1	5	5	227
	延数	11,396	4	15	14	11,429
令和2年度	実数	192	1	2	20	215
	延数	1,1854	1	2	41	11,898

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
令和元年度	1,647	190
令和2年度	1,695	187

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

年度 \ 介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
令和元年度	34	50	564	486	330	58	125	1,647
令和2年度	32	48	604	458	383	69	101	1,695



1 1. 与謝の園診療所

【入居者の診療状況及び健康診断等実施状況】

①診療状況

(ア) 与謝の園

年度 \ 科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
元年度	実数	105	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,783	0	0	0	0	0	0	0

2 年度	実数	101	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,719	0	0	0	0	0	0	0

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(イ) 他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
元年度	実数	27	19	3	5	7	48	9	8
	延数	34	78	6	17	9	79	49	11
2 年度	実数	14	13	3	4	1	17	8	3
	延数	18	70	5	5	4	88	33	5

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(ウ) 他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
元年度	実数	15	5	0	0	4	0	0	0
	延数	268	67	0	0	65	0	0	0
2 年度	実数	10	2	0	0	0	0	0	0
	延数	169	29	0	0	0	0	0	0

②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
元年度	80	令和元年 10 月 28 日	令和 2 年 2 月 1 日	令和元年 6 月 20 日	令和元年 9 月 25 日
				令和元年 12 月 18 日	
2 年度	80	令和 2 年 10 月 23 日	令和 3 年 2 月 1 日	令和 2 年 6 月 18 日	令和 2 年 10 月 12 日
				令和 2 年 12 月 14 日	

12. 事務

【職員研修参加状況】

① 施設内研修

研修・会議名	研修内容
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	不適切ケア・認知症について テスト実施
身体拘束ゼロ委員会/認知症ケア部会主催	タイプ別診断テスト実施
褥瘡対策委員会主催	各ユニット取り組み内容確認 回覧
感染症対策委員会主催	感染性胃腸炎の対処法について理解を深める。書面研修
感染症対策委員会主催	感染症対策に係る意識向上 動画・テスト実施
安全衛生委員会主催 10/25	腰痛予防
安全衛生委員会主催	災害対策
看取りケア委員会研修	看取りマニュアルについて 書面研修

看取りケア委員会研修	高齢者施設における看取りを考える。書面研修
リスクマネジメント委員会	KYT を用いて事例から考える。書面研修
リスクマネジメント委員会	リスクの知識を深める。書面研修

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
北星会法人合同研修	3	感染症対策 天橋の郷
令和 2 年度京都府介護支援専門員実務経験者専門研修 綾部	1	介護支援専門員実務経験者専門研修 綾部
京都府認知症実践者リーダー研修	1	認知症実践者リーダー研修（京都市）
2020 年ユニットリーダー研修	1	2020 年ユニットリーダー研修（Zoom）
令和 2 年度老人福祉施設協議会新任職員研修会 福知山	1	老人福祉施設協議会新任職員研修会 福知山
パラマウントベッド 大阪支店ショールーム見学	3	ベッド等福祉用具見学
令和 2 年度京都府主任介護支援専門員研修	1	更新研修（京都市）
府老協（身体拘束ゼロ推進研究委員会）	2	基礎研修 ZOOM 使用
施設看取り導入研修	1	施設看取り導入研修 3 回 ZOOM 使用
施設看取り専門研修	1	施設看取り専門研修 3 回 ZOOM 使用
施設長向け介護施設における看取りケア研修	1	「人生の最終段階を支えるために倫理的課題を踏まえて」 ZOOM 使用
2021 介護報酬改定について	10	介護支援専門委員会主催動画
障害者・高齢者虐待防止と身体拘束・行動制限を考える研修会	1	障害者虐待防止と身体拘束への理解

【介護実習等受入状況】

新型コロナウイルス感染拡大のため介護実習の受け入れはありませんでした。

【ボランティア活動状況】

シーツ交換・車いす清掃・傾聴ボランティア・お楽しみ会等の歌や踊りなどのボランティアを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
かるかも会	補修（衣服の繕い）	3 回	12

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数/年
主任会議	12 回/年

リスクマネジメント委員会	6 回/年
サービス向上委員会/行事部会	7 回/年
看取りケア委員会	4 回/年
サービス向上委員会/排泄部会	4 回/年
研修委員会	12 回/年
自己評価委員会	6 回/年
感染症対策委員会	6 回/年
身体拘束ゼロ委員会	6 回/年
褥瘡対策委員会	4 回/年
医療的ケア委員会	5 回/年
まつり実行委員会	4 回/年
部署間連絡会議	6 回/年
入所検討会議	12 回/年
安全衛生委員会	12 回/年
新型コロナ対策会議	20 回/年
新人研修	7 回/年
ショート調整会議	12 回/年

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 7 日	87 名	年 1 回
腰痛健診	9 月 7 日、2 月 15 日	77 名 56 名	年 2 回
深夜業務従事者健診	2 月	32 名	年 1 回
ストレスチェック	9 月	68 名	年 1 回

天橋の郷 事業報告書

【年度統括】

令和 2 年度においては、新型コロナウイルス感染症がまん延する中、感染防止と事業継続を両立させ、利用者・職員に一人の感染者も出すことなく、施設理念である「一人ひとりの「生きる力」を支える」の実践を念頭に、重点項目に沿った中長期及び本年度目標に基づき業務を進めました。

1 年を通してコロナ感染拡大に伴う利用控えや宮津市域における 65 歳以上人口の減少という背景があったにもかかわらず、稼働率の対前年比は **Re-style** の△4.2%となったほかは落ち込みが最小限にとどまるとともに、通所介護及びはまなす苑は前年度を上回る稼働率となりました。これは、職員が経営を意識し新規利用者の獲得をはじめ適切に業務を遂行した結果であり、このことにより天橋の郷が高齢者を支える社会資源として地域に真に必要とされる拠点の現れであると考えられます。

開設 4 年が経過した **Re-style** については、令和 2 年度から単独事業所として事業運営を始めました。通所介護事業所を分割したことにより、郷の通所介護は報酬単価が上がり、その結果対前年 800 万円近い増収となりました。

また、地域包括システムの推進の取り組みにおいては、在宅サービスを中心に、居宅介護事業所や地域包括支援センター、病院の地域連携室等と連携をとる中で、事業所としての役割を果たした一方、長期入所において、介護職、看護職、セラピスト、管理栄養士の多職種連携を進め、機能維持に努めながら一人ひとりの生きる力を支えるとともに、22 名の看取り対応を行いました。

職員体制については、引き続き本部と連携し、人材確保を行う中、新規入職者に対しては、プリセプター制度を導入し、育成を行いました。長期入所では、2 つのユニットによる職員の協力体制を敷く中で、職員の業務負担軽減を行いました。

介護現場の ICT 化が進む中、二つのユニットに眠りスキャン導入を導入し、夜間業務の効率化による職員の負担軽減を行いました。今後、導入の成果について検証し、他ユニットへの導入拡大を実施していきます。

懸案であった空調システムについては、一般財団法人エルピーガス振興センターの助成を受け、更新を行うとともに、電灯の LED 化を実施しました。併せて災害時にも 3 日間継続できる自家発電施設システムと屋外での炊き出し機能を整備しました。非常時においても業務継続できるシステムを整えたことにより、安心して天橋の郷を利用していただけることになります。今後、この機能を地域の方々とも共有すべく地元自治会と協議を行ってまいります。

重点項目	中長期目標	今年度目標	実 績
1 少子高齢化が著しく進む中において、地域の社会資源の一つとして入所・在宅サービスのいずれにおいても、最後の瞬間までその人らしく生きることができ、一人ひとりの尊厳が守られるよう、施設理念を実践する。	1 天橋の郷は人口の減少が進む地域であり、住み慣れた地域に暮らすことも難しくなりつつありますが、「この地域では、福祉や介護のことは天橋の郷があるから安心できる。」と地域の方々から信頼され、事業の継続を求められる施設となるよう努力します。	①支援室、相談員を中心に行政、居宅介護支援事業所と連携し、地域の状況を把握し、必要なサービス提供につなげます。	居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、病院の地域連携室等と連携し、サービスを必要とする方を把握、利用に繋げた。新規契約者数 長期 22(18)人、短期 48(47)人、通所 31(22)人、Re-style17(23)人、はまなす 10(17)人 ()はR1年度
		②多くの職員がいちごカフェの運営に関与するなど、地域の方から職員の顔が見える関係構築に努めます。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言の発令等により、地域の様々な行事が中止されるとともに、公共施設の利用制限もあり、予定していた行事等が実施できなかった。
		③地域と施設それぞれの行事等への相互協力や共同開催、防災計画の共同作成の可能性を探ります。	さとめーるを毎月発行し、利用者及び地域に配布した。
		④地域での敬老会や介護教室へ職員を派遣します。	
		⑬すべての職員が収支を意識しつつ業務を行います。	目標利用率を達成できたのは通所及びはまなすの2事業所に留まったが、コロナの影響を受けつつも職員の努力により落ち込みを最小限に食い止めた。
		⑯国の補助金を利用することを前提に、空調システム更新及び電灯のLED化を実施します。	一般財団法人エルピーガス振興センターの補助金を活用し、老朽化が著しかった空調システムを更新するとともに、電灯のLED化を実施した。併せて災害時に3日間継続できる発電機能と屋外でのガス炊き出し機能を整備した。
2 介護・医療の連携、多職種協働を推し進め、地域包括ケアシステムの具体的な取り組みやシステム作りに寄与できるように努める。	2 介護・医療の連携を深め、認知症対応やリハビリ実施の要望に添えていくことはもちろん、行政施策とも連動しつつ利用者個々の身体能力や生活状況に合致した必要とされるサービスを効率的に提供できるよう努力します。	⑤多職種との連携を深めるため、ユニットの運営方法の変更を含めた介護の体制整備を行います。	長期入所において、2～3ユニットごとの協力体制とし、連携しながら業務を実施した。 介護職、看護師、言語聴覚士が連携し、入所者の誤嚥予防や褥瘡予防に取り組んだ。
		⑥在宅、入所各事業所それぞれの役割を整理し、介護予防から看取りまでの要望に適切に対応します。	利用者のアセスメントを的確に行い、必要とされるサービス提供を行った。施設看取り数 22 名。3 か月に一度看取りについて施設内で情報共有を行うとともに。湯灌等看取りに係る経費について、見直しを行った。
		⑦地域ケア会議に多くの職員が積極的に参加します。	「北部医療センターのコロナ院内感染防止対策」をテーマとした地域ケア会議に施設長及び医務が参加した。
		⑧介護保険外サービスの提供について、検討を開始しま	持ち帰り弁当や紙おむつ斡旋販売により在宅での生活を支援した。

		す。	お持ち帰り弁当の継続 延べ利用数 2,564 食 紙おむつの斡旋販売 1,170 個
3 介護・看護人材 不足を補うために、多様な働き方や人材登用を行い、レベルの高い専門職人材の育成に努める。	3 運営に必要な職員数を確保し、職員が安心して楽しく誇りをもって業務に従事できる事業所を目指します。また、分業制を取り入れることでご利用者やご家族に喜ばれ、職員も働きやすく質の高いサービスの提供が行える体制を整備します。	⑨職員各々が個々の能力に応じた勤務ができるよう、各職種の業務を整理します。	介護職員の業務負担軽減のため、各ユニットに短時間パートを配置した。
		⑩本部と連携しつつ必要な職員の確保を行います。	R2 年度新規入職者 4 名
		⑪各事業所、多職種連携を推進するため、拠点内の職員配置転換を積極的に行います。	R2 年度配置転換職員数 13 名
		⑫Re-style はサテライト事業所を終了し、単独事業所として事業を開始します。	R2.4 から単独事業所として事業開始。郷通所介護は単純比較で 790 万円の収入増
		⑬新たに入職する職員に対しては、プリセプターによる育成を行うとともに、全職員に受け入れられるよう導入研修を行います。	R2 年度に採用した 4 名の職員に対し、新任職員研修を行うとともに、各々プリセプターを配置し個別に実務指導を行った。
		⑭入居者が安心して生活できるよう、また職員の夜勤等業務負担の軽減につながるシステム導入を順次実施します。	眠りスキャンを 2 ユニットに導入し、夜勤の業務負担を軽減した。今後、導入成果等を検証し、他ユニットへの導入を検討する。

【事業報告】

1. 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員： 70 名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
元年度	366 日	25,537 人	83 床	69.7 人	99.6%
2 年度	365 日	25,259 人	291 床	68.4 人	98.8%

(イ) 入退所状況（3 月 31 日時点）

年度 \ 区分	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
元年度	18 人	85 人	17 人	17 人 (14 人)	0 人	0 人	0 人
2 年度	22 人	92 人	23 人	22 人 (16 人)	1 人	0 人	0 人

(ウ) 地区別 入居状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
元年度	78 人	6 人	1 人	3 人
2 年度	81 人	6 人	1 人	3 人

(エ) 年齢・性別 入居状況

年齢 性別 区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100 以上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
元年度	0	0	0	0	1	3	5	25	3	30	0	3	9	61	70
2 年度	0	0	0	1	0	3	3	19	4	35	0	5	7	63	70
平均年齢	元年度		男性		87.1 歳		女性		89.8 歳		合計		88.4 歳		
	2 年度		男性		90.1 歳		女性		91.1 歳		合計		91 歳		

(オ) 入居期間別 入居状況 (特養)

期間 区分	6 か 月 未 満		6 か 月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
元年度	1	6	0	10	2	18	6	22	0	5	9	61	70
2 年度	2	9	1	8	2	22	2	21	0	3	7	63	70
平均入居期間		元年度				3 年 6 か月							
		2 年度				4 年 8 か月							

(カ) 入居期間別 延入居状況 (特養)

期間 性別 年度	6 か月 未 満		6 か月 以 上 1 年 未 満		1 年 以 上 3 年 未 満		合 計
	男	女	男	女	男	女	
元年度	1 人	7 人	1 人	12 人	3 人	22 人	
2 年度	2 人	17 人	2 人	18 人	2 人	19 人	
期間 性別 年度	3 年 以 上 10 年 未 満		10 年 以 上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	
元年度	6 人	27 人	0 人	7 人	11 人	75 人	86 人
2 年度	2 人	25 人	0 人	5 人	8 人	84 人	92 人

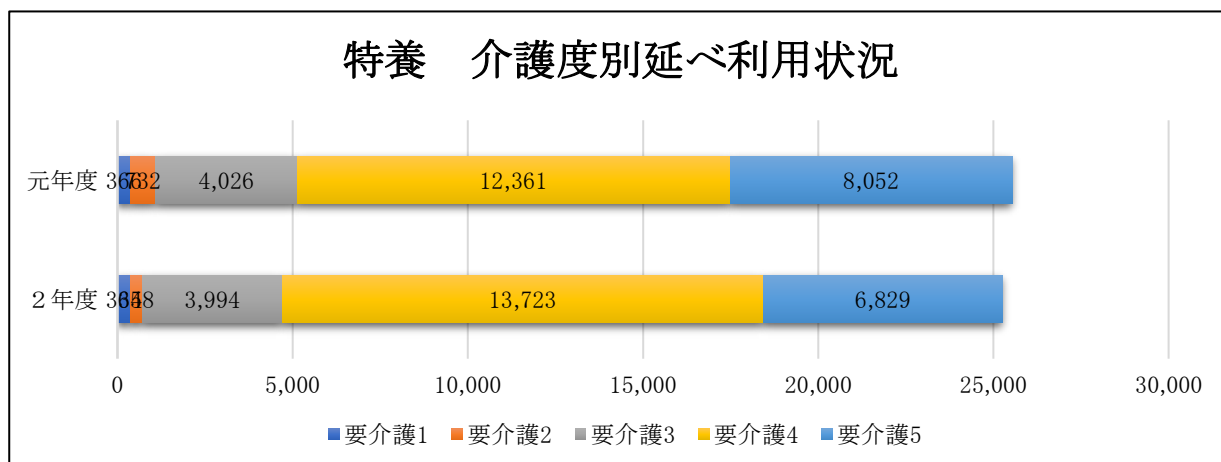
(キ) 介護度別 入居状況

介護度 性別 区分	要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
元年度	0	1	0	2	4	7	3	31	2	20	9	61	70
2 年度	0	1	0	1	3	8	4	34	0	19	7	63	70
平均要介護度	元年度				4.1				2 年度				4.0

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
元年度	366 人	732 人	4,026 人	12,361 人	8,052 人	25,537 人
2 年度	365 人	348 人	3,994 人	13,723 人	6,829 人	25,259 人

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。



2. 介護部

経験したことのない感染症対策に追われた1年で、入居されている方々に家族や地域との面会・接触制限をお願いする残念な年となりました。コロナ渦という事もあり長期介護部門としての地域交流・地域貢献には力が及びませんでした。感染終息の折には改めて地域ニーズ感知の機会作りに貢献したいと思います。

ユニット運営では、2ユニットまたは3ユニットを基本とするユニット間の協力体制の強化で、入居者へのケアがより安全で円滑に提供できるような勤務体制の取り組みを始めました。今期特有とも言える制限の中で生活される入居者のストレスを感じながらその関り方を探り、看取り期に向かわれる方々には安心を感じて頂けるよう連携を取りながら、工夫したケアの提供に努めることが出来ました。まだまだ外部との面会・接触制限が続くと予想される中であって、新人を含む職員個々のコミュニケーション力向上と入居者ファーストを念頭に置いた介護力のレベルアップを図りながら、入居者に寄り添える人材育成に力を注ぎたいと思います。

- ・ 暁ユニット：重度化が進み看取りの方が増える中で、最後までその人らしく持つておられる力が発揮できるよう自立支援に努めました。最後まで目標を持ち成果を上げることも出来ました。刻々と変化する状態にユニット職員・他部署との連携を密に取りながら対応できたと思います。看取りの経験を積み、ユニット内で勉強会等を開いて話し合うことで自分のしているケアの振り返りと根拠の理解、多角的な視点を養うことができ職員の成長に繋がったと思います。お便りと物品依頼時等にも入居者のご様子を報告することで、ご家族とのコミュニケーションを取れるように努めました。

3ユニット協力体制では、ショートとの勤務体制や業務の流れが違う為、主に固定配置職員で勤務を組むこととなりましたが、長期部門として独り

歩きしてしまわないよう努めました。2 階ユニットの情報が取りづらく相談が難しい状況にあったので、情報共有・相談のあり方を検討します。

感染症対策や様々な加算等にも理解を深めながら、一人ひとりのケア能力向上を意識して支援し、業務改善・効率化にも取り組んでいきたいと思っています。

- ・ 泉ユニット：コロナ禍での感染対策に追われる中、看取りケアに入られた方々やご家族を最期まで支え安心を感じて頂ける環境の提供に努め、早い段階で医務や支援等と連携を取りながら移行に繋げる事が出来ました。新規入居者も多く、入居者一人ひとりの思いに添えるよう、スタッフ間できめ細かな情報共有や伝達・意見交換など、柔軟で円滑なチームケアに努めました。スタッフの様々な視点で個々のニーズを探り必要なサポートを随時更新しながら、入居者に安心した生活を送って頂けるよう努めることが出来ました。

新人職員の育成は、プリセプター制度を導入し、プリセプターを軸とした協力体制をとりながらスタッフ自身を振り返る良い機会と捉え、専門職としての意識づけとチームケア力の向上を図ることが出来ました。

2 ユニット連携では、ユニット会議で入居者の情報を共有しながら両ユニットの業務に入れるよう勤務の調整を進めています。今後も協力体制の強化を進めて安定したケアの提供に努めます。

- ・ 紅ユニット：入居者が安心を感じながら安全に過ごして頂けるよう、信頼関係を大切にしたい寄り添う介護に努めました。日々状態に変動ある入居者に対し、思いを汲み取ることに意識を置いて望まれる生活スタイルを尊重し、一人ひとりに合ったケアを職員間で相談・共有しながら生活を支えることが出来ました。少ない配置人数や感染症対策等で業務に追われる中、職員一人ひとりがプロ意識を持ってケアに努める事が出来たと思います。ユニット内の業務の統一や他部署との連携で一部不足していた部分を反省として、より一層の情報共有と連携強化に努め、入居者に上質なケアを提供出来るよう努めます。

2 ユニットの連携では、ユニット会議以外にも入居者の情報共有に努めてきました。ユニット間の勤務調整を継続し、より柔軟な勤務体制を取れるように進めていきます。

- ・ 翠ユニット：総合的に高い意識を持って前向きな姿勢で取り組みました。新規入居者の受け入れでは、職員全員が常に情報収集・状態観察を意識し、そこで得た情報をしっかりと共有しながら、ご本人の意思を尊重した最善・最良なケアに近づけるよう努めました。試行錯誤して統一したケアの中でも柔軟な対応ができチーム力向上も図れました。看取りケアにおいても、入居者一人ひとりと真摯に向き合い、その方が望んでおられる事は何かと職員間で沢山の意見交換を行いながら、最期の時まで思いを汲み取る事に努めました。スタッフ一丸となって『生きる力を支える』を実践出来たと思います。

プリセプター制度では、プリセプターと協力しながら新人育成に関わる事で、職員一人一人が自身を振り返りながら成長し、育成者としての自信をつける事に繋がりました。

眠りスキャン導入では、目視による巡回とモニターによる観察で、入居者の夜間帯安眠確保と職員の負担軽減に取り組むことが出来ました。今後は睡眠データ等の分析を、快眠に繋げられるように活用したいと考えます。入居者の中には、職員の異動に不安を抱える声もありますが、これからも入居者一人ひとりと向き合う姿勢で信頼関係を深め、自己研鑽を積みながら、より質の高い介護力と強いチーム力で「あなた達なら安心」と感じて頂けるケアの提供に努めます。

- ・ 茜ユニット：入居者の生活スタイルや想いを尊重し快適に過ごして頂けるように、ユニット・支援・医務・調理等他部署との連携を取りながら検討を進め、入居者の状態に合わせたケアの提供が出来ました。

看取りケアでは、睡眠量や食事量が極端に不規則な方の状態変化の見極めに難しさを感じましたが、こまめな状態観察と情報共有で連携し最適なタイミングで看取りケアに入ることが出来ました。最期までその方の生活リズムに合わせたケアに努めました。

眠りスキャンに関しては、モニター確認を取り入れたことで移動距離がある茜・翠の夜間の巡回での職員負担はかなり軽減されました。訪室回数を減らすことで眠りの浅い入居者の安眠優先を行う事が出来ました。今後はデータを他にも活用できるよう検討していきます。

新人職員の育成では、プリセプターだけに任せきりにせず、ユニット職員全員で指導していくことを念頭に置いて指導内容を共有していくことが出来ました。今後も丁寧な指導を心がけていきたいと思えます。

2 ユニットでの連携では、出勤時お互いのユニットに足を運んで引継ぎをすることから始め、徐々に協力することの意識を高めていくことが出来ました。どちらのユニットでも業務が出来ることを目標に、ペアユニットの勤務に入る調整を行い、協力体制を強化していきます。入居者一人ひとりとしっかりと向き合い、その人らしさを大切にしたいケアが出来るように、職員間の情報共有や報連相を密にすることを意識しながらチームワーク向上を目指します。

- ・ 和ユニット：今年度は看取りで亡くなれる方や急変で退所される方等、入居者の入れ替わりが多く職員異動もありましたが、職員間でしっかりと連携を図れたことで統一したケアが提供出来ました。他部署との連携を常に意識しながら些細な変化も密に共有し、状態変化に迅速な対応を心掛け看取り移行が行えました。

コロナ禍では色々な制限を受け、入居者の生活やメンタルにも影響が見える中で、気分転換を図る為の柔軟な対応に努めました。今後もプロ意識

をしっかりとってチームケア力の向上に向けて刺激し合い、心のこもった良質なケアの提供に努めます。

今年度は2ユニットでの勤務体制がうまく進まなかったもので、協力して勤務の調整に取り組みます。

- ・梓ユニット：今期は3名の方が亡くなりましたが、いずれも急変や看取りに入る前だった為、改めて状態の見極めや導入のタイミングの難しさを痛感しました。しかし、その時々にはできる最善のケアについて職員間での意見交換を重ね、他部との連携を図りながらのケアを提供する事が出来ました。また、言葉や態度に気をつけて入居者にも職員にも思いやりを持って接することの意識付けを促し、良好な関係の構築に努めました。今後は業務の見直しを進め、一人ひとりにゆっくりと時間をかけた関りを増やす工夫をしたいと思います。入居者が最期を迎えられる時まで安心の中で穏やかに生活して頂けるよう、スタッフ全員が同じ方向を向いて声を掛け合いながら質の高いケアの提供を目指します。

2ユニットでの連携については、しっかりとした協力体制を取りきれなかったように感じています。遅れを取り戻すべくしっかり体制を整え、スタッフがどちらのユニットでも安定して業務が遂行でき、安全なケアが提供できるように取り組んでいきます。

3. 看護部

高齢者の特性や加齢による身体的・精神的変化などを理解した上で個々の入居者を知り、日々の生活に寄り添った看護を提供する事が出来ました。また重度化した入居者も多く、必要な受診等は速やかに嘱託医やかかりつけ医に報告相談し、家族や他職種と連携を取りながら個々に応じた治療を提供する事が出来ました。

入所～終末期においてもこのコロナ禍でとまどう事も沢山あり、充分とは言えませんが入居者や家族への理解や満足が得られるように嘱託医やかかりつけ医の指示のもと、全職種チーム一丸となって個々にあったケアの提供を行う事が出来ました。今後も常日頃から密に連携を取り合い、質の高いケアが提供できるよう、また入居者が安心・安楽に穏やかな生活が送れるように努めていきます。

色んな場面で一人ひとりが看護師、チームリーダーとしての役割が果たせるように周囲のスタッフの協力を得ながら業務や委員会活動をすすめる事が出来たと思います。

今年度も信頼関係を大切に新たな取り組みに向けて知識・技術の向上に努めていきたいと思っています。

①診療状況（天橋の郷）

（ア）天橋の郷

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
元年度	実数	87	5	0	7	0	5	0	0
	延数	735	16	0	17	0	70	0	0
2年度	実数	93	2	0	8	0	9	0	0
	延数	729	2	0	51	0	98	0	0

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

（イ）他の医療機関 通院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
元年度	実数	7	12	4	0	1	0	0	0
	延数	10	23	8	0	1	0	0	0
2年度	実数	14	16	1	0	1	2	0	0
	延数	19	36	1	0	1	9	0	0

（ウ）他の医療機関 入院

科目 年度		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
元年度	実数	2	1	0	0	4	0	0	0
	延数	2	1	0	0	4	0	0	0
2年度	実数	6	4	0	0	1	0	0	0
	延数	7	4	0	0	1	0	0	0

②健康診断等の実施状況（実施日時）

	対象人数	胸部集団検診
元年度	70	令和元年 10 月 29 日
2年度	69	令和 2 年 10 月 13 日

4. 支援室

昨年 2 月以降はコロナ禍で感染予防最優先の一年となり、ご入居者には行事や外出だけでなく日常生活においても制限をかけさせていただき、不自由な生活を送って頂くこととなりました。ご家族との面会が出来ず、ご入居者はもとよりご家族にも不安や心配をおかけする中で、ご家族に少しでも安心して頂けるようにと、毎月各ユニットよりご入居者の近況報告を顔写真入りの手紙にして発信したり、ご要望により面会 GO を利用したオンライン面会の対応を行いました。

入退所については 7 月～9 月と 12 月～1 月にかけて大きく動きましたが、事前準備をした中で空床期間を極力減らすよう努めました。しかし、内科的疾患や骨折による入院が多く、入院期間が長引く方もあり稼働率を下げる結果になりました。ただ、例

年なら誤嚥性肺炎での入院が数件ありましたが、言語聴覚士の指導やユニットスタッフのこまめな安全な食事形態への見直し、誤嚥性肺炎のリスクを下げ入院されるご入居者はありませんでした。

看取りについては前年度と比較すると看取りの同意を取れずに逝かれた方が 23 名中 7 名と多く、看取りへの移行時期の見極めの難しさを改めて感じる結果となりました。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
元年度	110 件	3 件	21 件	0 件	0 件	134 件
2 年度	101 件	2 件	24 件	0 件	0 件	127 件

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
元年度	49 人	19 人	6 人	11 人	85 人
2 年度	38 人	41 人	6 人	9 人	94 人

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要支援・他	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
元年度	0 人	0 人	2 人	64 人	14 人	5 人	85 人
2 年度	0 人	0 人	3 人	51 人	31 人	9 人	94 人

(エ) 退居状況 (特養)

退去先 年度 区分		自宅 家族宅	医療機関 (入院)	看取りによる 死亡	その他	合 計
元年度	人数	0 件	0 件	17 件	0 件	17 件
	比率	0%	0%	100%	0%	100%
2 年度	人数	0 件	1 件	22 件	0 件	23 件
	比率	0%	4.3%	95.6%	0%	100%

5. 給食部

令和 2 年度は新型コロナウイルスの流行により、利用者様にとって行事や外出の中止等、楽しみの少ない日常となりました。その中でもデイサービスで握り寿司企画、そして、はまなす苑ではお節とひな祭りの企画弁当をそれぞれ数日実施することができ、喜んでいただきました。又普段の食事では少しでも楽しみを感じてもらえるよう季節感を意識し、彩り、栄養価にも配慮しながらメニューを考え、地元でとれた新鮮な食材を使用し美味しい食事提供に努めました。

多様化するニーズとして減塩食やアレルギーの方の代替え食、刻み食、ゼリー食、ミキサー食等にも他部署と連携を取りながら利用者の状態に応じた食事形態に細かく

適切に応えられるよう努めました。

配食弁当は一人暮らしの方の安否確認を兼ねてお顔を見てお届けしました。
又通所の方への持ち帰り弁当も喜んでいただいていると思います。

今後ご利用者の健康維持はもちろんですが、楽しみとなる食事作りに心を込めて取り組んでいきます。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	特養	短期入所	通所
元年度	25,372 食	6,843 食	12,226 食
2 年度	25,196 食	6,810 食	12,506 食

(イ) 栄養基準（1日あたり）

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基 準	1,400	50	550	30	6	560	1	1	100
元年度	1,449	56	473	41	5.1	450	0.7	0.9	72
2 年度	1,446	56	475	40	5.0	447	0.7	0.9	75

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

群 類 区 分	1 群		2 群						3 群					4 群		
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獸鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌	堅果類	綠黄色野菜	淡色野菜	果實類	芋類	海藻類	米	麦	油脂
基 準	250	20	70	50	50			1	80	150	50	40	5	180		3
今年度平均	275	17	67	51	42			1	83	152	52	39	2	177		3

6. 短期入所

今年度より、支援室が新設され長期と情報を共有し連携することで、入所を理由に利用中止となられた方の 25 名中、11 名が天橋の郷長期へ入所されました。お亡くなりになられた方は 15 名あり、計 40 名の方が 1 年間で利用中止になりましたが、新規ご利用者は 47 名にとどまり稼働率は前年度とほぼ同等に終わりました。

また、昨年度に比べ入退所数が月平均 20 件ほど多く、受け入れや退所の準備に現場への負担が大きくなっています。中重度以上の認知症の方のご利用も増え 1 泊や 2 泊での対応が増えている事、ご利用の必要性和介護度が比例せず限度額の制限がある事、コロナ禍で思うようにユニットでの行事等が行えず、ご利用者お一人お一人に滞在中の楽しみの提供が十分に行えなかったのも、滞在日数が増えなかった要因と考えます。ご家族の介護軽減が主なご利用目的ですが、ご利用いただくご本人には天橋の郷へ行

く楽しみや意欲を感じていただけるよう他施設との差別化も視野に入れ、おもてなしの心を忘れず、ご利用者から「また、天橋の郷に行きたい」と言っていただけるよう設えや、企画も行い稼働率向上に繋がりたいと思います。

年々ご利用者の生活歴にも変化が見られ、10年前と同じケアでは満足度の維持・向上には繋がらない事を職員が今一度認識し、認知症の方への対応にも積極的に取り組み、柔軟な対応力を備え、ご利用者の今出来ることを見つけ継続できるケアに努めます。

・介護部

各ユニット運営だけにこだわらず、ショートで業務を行うことにより職員体制の不足を補うように取り組んできました。今後もユニットの特徴や色が消えないように配慮しながら職員が配属でないユニットでも同様に業務ができる職員を増やしていきます。また、違った環境で業務することにより職員のスキルアップにも繋がったと考えます。

コロナ禍において、感染症対応を強化し、ご利用者の体調面への配慮を怠らず、職員一人一人が自分自身の体調管理もしっかり行い、施設での感染症の発症を防ぐことができたことは大きな成果といえます。今後も状況に応じた最善の感染症対応に努めていきます。

ショートステイのご利用者の特徴として、介護度の低い身体的にはお元気な認知症の方が増加してきていると感じております。職員の身体的負担より精神的な負担が大きくなってきておりますが、今後もこういったご利用者の方は増加していくだろうと推測しております。今後も専門職としての認知症の知識を取り入れ、根拠のあるケアを行い、少しでもご利用者、ご家族が安心して在宅生活を送れるようなサービス提供に努めていきます。

昂ユニット：職員の入替わりが続く中でも、ご利用者の個性や要望に応じていけるように努め、サービスの質を維持することができました。また、短期間の利用の増加により入退所に伴う荷物チェックや居室掃除などの業務が増加し、職員の負担も大きくなりましたが、利用者との関わりを重視し、個々のニーズに沿ったケアを意識して行うことができました。

コロナ禍において願いを叶える行事やレクリエーションの実施など楽しみの提供は不十分であったと考えます。次年度からも同様の状況下が想定されるため、このご状況下にあった余暇活動を模索していきます。

虹ユニット：『おもてなしの心』を目標に掲げ、職員一人一人が意識をもって業務にあたることが出来ました。厳しい人員体制や新人の育成も重なる中、利用者に重度の認知症の方の利用が増えたことで、その対応に追われて余裕なくバタバタとしてしまうことが多くありましたが、しっかりコミュニケーションを取りながら利用者の意向を汲んだケアの提供に努めました。大きなレクリエーションはコロナ渦ということもありなかなか企画できませんでしたが、短時間

のコミュニケーションを繰り返すことで関りを深めることができました。

これからも利用者に喜んで頂ける個別ケアの提供と、個別のレクリエーションの工夫に努めます。

①利用者の状況

(ア) 稼働率（定員：20 名）

区分 年度	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
元年度	366 日	6,936 人	18.9 人	94.7%
2 年度	365 日	6,879 人	18.9 人	94.3%

(イ) 契約数

区分 年度	新規入所者
元年度	48 人
2 年度	47 人

(ウ) 地区別 入所状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	福知山市
元年度	141 人	2 人	1 人
2 年度	148 人	1 人	1 人

(エ) 介護度別 入所状況

介護度 性別 年度	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
元年度	0	0	2	5	1	24	9	31	15	27	5	11	6	8	38	106
2 年度	0	3	0	2	5	25	13	32	15	26	10	13	2	9	45	110
平均要介護度	元年度				2.49				2 年度				2.36			

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(オ) 要支援度別 入所状況

要支援度 性別 年度	要支援 1		要支援 2		合 計	
	男	女	男	女	男	女
元年度	0	0	2	5	2	5
2 年度	0	3	0	2	0	5

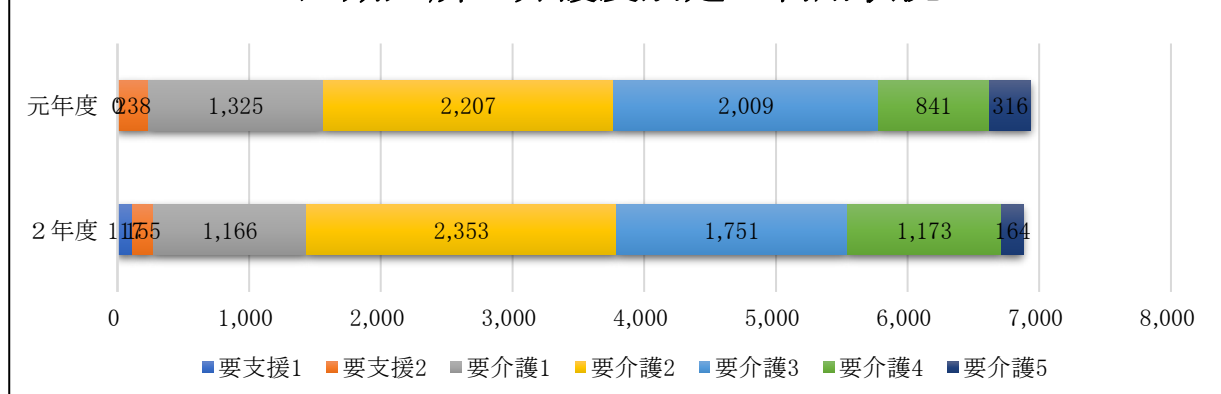
(カ) 介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
元年度	0 人	238 人	1,325 人	2,207 人	2,009 人	841 人	316 人
2 年度	117 人	155 人	1,166 人	2,353 人	1,751 人	1,173 人	164 人

(キ) 加算の状況

加算項目 年度	機能訓練体制 加算	サービス提供 体制加算 I 1	夜勤職員配置加 算 II	在宅中重度者 受入加算 4	送迎加算	処遇改善 加算 I	特定処遇改善 加算 I
元年度	6,935	6,935	6,697	14	2,471	1,073	537
2 年度	6,184	6,868	6,606	13	2,599	1,042	1,042
加算項目 年度	緊急短期入所 受入加算	長期利用者提 供減算					
元年度	0	0					
2 年度	2	26					

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 通所

新型コロナウイルスの影響で様々な対応・制約が必要な一年となり、日常の活動やレクリエーションでも新たな視点での検討が必要となり、スタッフも頭を悩ます場面が多い一年でした。特に非日常のレクリエーションや行事の実施が難しく、ご利用者の楽しみが例年よりも少なくなっていました。

その中でも出来る事を探し、楽しみを感じて頂けるようにスタッフ皆で工夫をしながら日々のサービス提供に当たりました。特に午後からの活動は小グループでの活動を実施し、ご利用者のニーズを聞き取りながら日々4つ以上のグループ活動を実施することを意識し、『京都式選べるデイサービス』の継続、一層の充実を図りました。

今後も取り組みを継続させ、ご利用者が一層意欲的に参加できるよう進めたいと思います。

年間計画より、

創作…担当者を中心に職員が連携しながら、季節に応じた制作物を提案し、ご利用者と一緒にモノづくりを行いました。

園芸…季節の野菜を中心に園芸を行いました。感染症対応などもあって例年ほど収穫後の楽しみを広げる事が出来ず、来年度は状況を見ながら収穫後の楽しみを共有できるように進めていきたいと思ひます。

運動…従来のニュースポーツに加えてボッチャも取り入れて、どなたでも参加して頂ける取り組み易いプログラムを考えながら、ご利用者の状況やその日の状況に合わせたオリジナルのレクリエーションも実施しました。

また、恒例のボーリング大会を開催。普段以上に順位を気にしたり、ご利用者間で競争をしながら楽しんで頂きました。

脳トレ…好評を得ているカラオケで懐かしい唱歌や流行歌を取り入れて楽しみながら回想出来るように取り組みました。その他には書道、計算や漢字などのドリル、塗り絵などご利用者の要望に応じたものの提供を行いました。

トランプやジェンガなどのテーブルゲームを積極的に取り入れ、分かり易いルール・誰でも参加できるようなものを準備し、楽しみながら心身を動かして頂けるように取り組みました。特に男性陣に好評を得ており、今後も継続して取り組んでいきます。

稼働率に関しては、コロナウイルスによる利用控えもあって思うように伸びませんでした。特に冬季は積雪や他施設利用、骨折などによる長期間の休養などが重なり、昨年以上の低水準となってしまいました。今年度もコロナウイルスの状況は改善の兆しが見えない状況ですが、各居宅事業所と密に連携を取って柔軟な新規受け入れ、日々のサービス内容の充実を図り、現在利用中の方にしっかりと利用して頂けるようにすすめていき、稼働率の維持・向上を図ります。

加算においては、機能訓練指導員 2 名体制でのサービス提供が実施できており、平行棒での歩行訓練など一層充実した個別訓練が実施出来ました。特に今年度から算定を開始した口腔機能向上加算に関しては、ご利用者からの反応が良く、サービス利用中の提供だけでなく、ご自宅での口腔ケアの指導などにも力を入れて実施し、口腔内の清潔保持による誤嚥性肺炎などのリスク軽減が図れたと感じております。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
元年度	35 人	259 日	7,818 人	86.3%	1.3
2 年度	35 人	260 日	7,899 人	86.8%	1.4

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
元年度	3,071 人	1,862 人	784 人	194 人	133 人	6,044 人
2 年度	2,795 人	2,284 人	808 人	247 人	83 人	6,217 人

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	合 計
元年度	344 人	1,430 人	1,774 人
2 年度	434 人	1,248 人	1,682 人

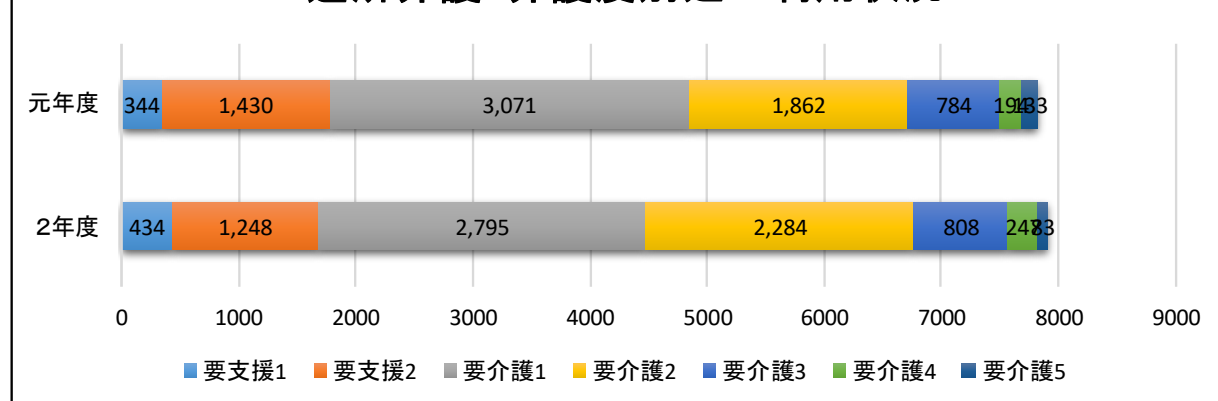
※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算 I	個別機能訓練 加算 II	提供体制加算 I 1 (介護)	提供体制加算 I 1 (予防)	提供体制加算 I 2 (予防)	入浴加算
元年度	4,246		6,057	90	204	4,416
2 年度	5,516	4,202	6,235	112	172	5,006

加算項目 年度	口腔機能向上 加算	運動器機能 向上加算	事業所評価 加算	処遇改善加算 I	特定処遇改善 加算 I	送迎減算
元年度		294	294	1,171	601	207
2 年度	878	292		1,128	1,128	350

通所介護 介護度別延べ利用状況



8. R e - s t y l e 通所介護事業所

今年度から従来のサテライト型から単独の通所介護事業所として運営を始めました。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、特に緊急事態宣言時には利用控えが続き、その減少分を最後まで取り戻す事が出来ませんでした。

開設 4 年が経過し、当初からのご利用者の身体状況の変化も著しく、要支援から要介護へ変わる方も多くなっており、その結果、通年での要介護延べ人数が増える一方で、要支援者は大きく減少しました。その影響で他事業所へ移行になり、利用中止に

なる方も多く、その減少分を新規で埋める事が出来ませんでした。また、社会福祉協議会が近隣で開設した総合事業通所型サービスの影響も少なからずあり、新規ご利用者の見学や問い合わせも例年に比べ極端に少なく、新規獲得においては非常に厳しい一年となりました。

今後はケアマネとの連携、ご利用者、またその家族との関係も深め、新規ご利用者の獲得に努めるとともに、今行っている活動を対外的にアピール出来るような広報活動にも力を入れていきます。

今年度はコロナ禍で、Re-style らしい屋外での活動があまり出来ませんでした。その中で、少しでも身体を動かす喜び、楽しさを感じて頂く為に、屋内でのスポーツ大会やイベントに力を入れていきました。ただ、外出を制限されている高齢者も多く、精神的にストレスが溜まっている方も多数みられ、屋外での活動を求める声が大いのも事実であるので、近隣の新型コロナウイルス感染症の状況などもみながら、外出が可能な状況であれば、感染症対策をしっかりと取り、屋外でのウォーキングや体操などの活動も進めていきます。

今後でもご利用者の意欲を引き出す、楽しみながら身体を動かす事が出来る活動に積極的に取り組んでいきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
元年度	AM・PM 15/15	259 日	4,792 人	61.7%	要支援 2
2 年度	AM・PM 15/15	260 日	4,482 人	57.5%	要支援 2

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
元年度	925 人	326 人	54 人	4 人	0 人	1,309 人
2 年度	1,069 人	467 人	71 人	26 人	0 人	1,633 人

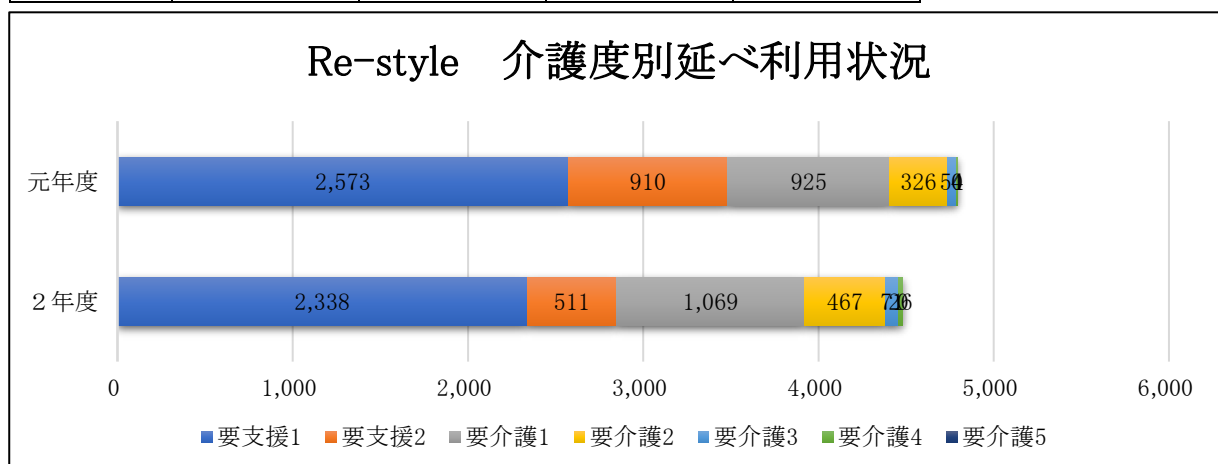
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2	合 計
元年度	0 人	2,573 人	910 人	3,483 人
2 年度	36 人	2,302 人	511 人	2,849 人

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	個別機能訓練 加算Ⅱ	提供体制 加算Ⅰ（介護）	提供体制 加算Ⅰ 1（予防）	提供体制 加算Ⅰ 2（予防）	運動器機能向上 加算
元年度	1,283	1,320	675	217	892
2 年度	1,493	1,628	598	140	738

加算項目 年度	処遇改善 加算 I	特定処遇改善 加算 I	事業評価加算	送迎減算
元年度	1,230	611	892	52
2年度	1,125	1,125	0	28



9. はまなす苑通所介護事業所

今年度はご利用者、スタッフが心から楽しめる施設づくりに取り組んできました。イベントでは視覚・聴覚など環境面にも力を入れ盛大に行ってきました。その成果もありご利用者から有難いお言葉も頂き、職員も自信を持ってイベントの企画など取り組むことができました。

地域との関わりを持ち、社会参加することで「生きがい」を見つけて頂くために始めた「はまなすマルシェ」もコロナ禍もありうまく機能しませんでした。今年度はコロナが落ち着き次第、すぐに動き出せるよう準備していきます。そして、この企画のもうひとつの意図であるはまなす苑と地域との距離がより身近なものになるよう第2弾、第3弾と企画をすすめていきます。

今年度は月によって増減はありますが、昨年度の平均稼働率を上回る事ができました。しかし、時期によって老健入所や入院される方、または特養やグループホームの入所も重なり稼働率が大幅に減少する月も見られた為、そういった時にでも対応できるよう不定期でご利用できる方や新規利用者の確保に努めていきます。現在は要支援の方が少ないため、今後は要支援の方が利用できるような体制も整え、実現に向けてスタッフ一丸となりまい進していきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
元年度	20人	259日	4,467人	86.2%	2.0
2年度	20人	260日	4,603人	88.5%	1.9

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
元年度	1,403 人	1,450 人	1,168 人	45 人	93 人	4,159 人
2 年度	1,724 人	1,067 人	1,176 人	182 人	186 人	4,335 人

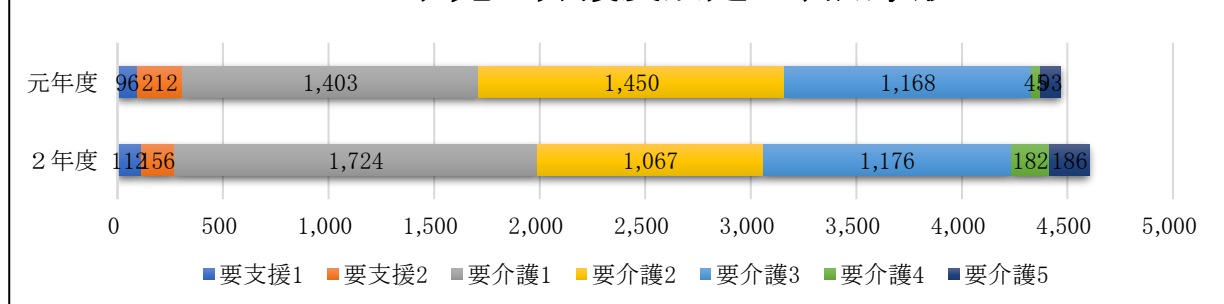
(ウ) 介護度別利用状況 介護予防

介護度 年度	事業対象者	要支援 1	要支援 2	合 計
元年度	0 人	96 人	212 人	308 人
2 年度	19 人	93 人	156 人	268 人

(エ) 加算の状況

加算項目 年度	入浴介助加算	認知症加算	送迎減算	サービス提供 体制加算 I	口腔機能 向上加算 I	処遇改善 加算 I	特定処遇 改善加算 I
元年度	4,091	1,415	46	4,159		495	251
2 年度	4,257	1,386	96	4,336	575	480	480

はまなす苑 介護度別延べ利用状況



10. 事務

【配食サービス】

年度	項目	介護配食
元年度		1,021 食
2 年度		1,266 食

【持ち帰り弁当】

年度	項目	持ち帰り弁当
元年度		2,225 食
2 年度		2,564 食

【おむつ等販売】

年度	項目	販売数 (パック)
元年度		1,102 個
2 年度		1,170 個

【職員研修参加状況】

①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
認知症ケア委員会	79 人	ユマニチュードの実践（動画研修）
感染症予防委員会	86 人	食中毒予防について 手指洗淨・手指消毒
事故防止・拘束対策委員会	83 人	見守りロボット（眠りスキャン）
褥瘡予防対策委員会	71 人	褥瘡クイズ
看取り委員会	43 人	クローズアップ現代より 玉木妙憂氏動画
感染症予防委員会	38 人	吐物処理の実践（ユニットごと）医務がチェック
事故防止・拘束対策委員会	73 人	見直そう！ 不適切ケア（動画研修）
感染症予防委員会	57 人	新型コロナ感染対策の実践

②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
認知症介護実践者等養成研修	4	認知症介護のあり方について
認知症介護実践リーダー研修	3	認知症実践リーダーとしての研修
食品衛生責任者実務講習会	1	食品衛生管理について
E 式合同考課者研修	4	評価方法について
京都府機能訓練指導員等研修	1	機能訓練指導員研修
感染症リスクマネジメント	3	新型コロナウイルス予防について
福祉リーダーの極意を学ぶ研修	2	福祉リーダーの心得
福祉サービス苦情解決事業セミナー	2	苦情解決について
宮津市虐待防止ネットワーク研修	2	虐待予防啓発
医療と介護の連携推進研修会	3	多職種連携の重要性について
看介護リハビリテーションステップアップ研修会	1	リハビリテーション技術習得
虐待防止・身体拘束廃止研修	2	虐待防止拘束廃止啓発
福祉サービス苦情解決事業相談研修会	2	苦情解決について
看取り介護研修	2	看取り介護の充実について
介護報酬改定読み解き講座	4	令和 3 年介護保険改定のポイントについて

【介護実習等受入状況】

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、受入れは中止した。

【ボランティア活動状況】

新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、受入れは中止した。

【各種会議開催状況】

会 議 名	開催回数／年
感染症予防委員会	1 4 回
認知症ケア委員会	4 回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	4 回
事故防止・拘束廃止委員会	1 2 回
看取り委員会	4 回
安全衛生委員会	1 2 回
業務運営会議	1 2 回
入所判定会議	1 7 回
介護会議	1 2 回
ユニット会議（各ユニット毎）	1 2 回
デイ会議	1 2 回
地域貢献PR委員会	8 回
医務会議	1 2 回
調理会議	1 2 回
給食会議	6 回

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9 月 9 日	110 人	年 1 回
腰痛健診	9 月 9 日・2 月 17 日	96 人・82 人	半年に 1 回
深夜業務従事者健診	2 月 17 日	38 人	年 1 回
ストレスチェック	9 月 9 日	87 人	年 1 回

介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑

事業報告書

【事業統括】

令和2年度は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大が危惧される中、高齢者施設では感染症対策、マニュアルの見直しを行い、強い危機感を持ってサービスを提供していく状況となり、前年度に比較し更に厳しい施設運営となりました。老健なぎさ苑では地域の高齢者福祉施設の整備や充足状況、地域で介護サービスを展開している事業所の運営状況と整備計画を踏まえ、以下の6項目を事業計画に掲げて重点的に取り組みました。

令和2年度事業計画重点項目

1. 在宅復帰・超強化型の算定維持、その他の専門的加算の充実
2. 居宅介護支援センターの整備、ケアマネ等の専門職の確保・育成
3. ナースコールシステムの活用とリスクマネジメント
4. 職員研修（OJT、Off-JT）の充実、職員間の情報共有
5. 環境にやさしい介護施設の整備
6. 利用者の障害や状態に対応し、安全・安心でかつ楽しい食事を提供する

1. 在宅復帰・超強化型の算定、その他の加算獲得と維持

平成30年度に施行された介護報酬改定で、老健の在宅復帰・在宅生活維持支援の役割が明確となり全国の老健は5段階に類型化されました。なぎさ苑は、従前から在宅復帰と在宅支援に積極的に取り組んでおり、新設された超強化型加算の算定と維持を目標とし、**平成30年6月から超強化型加算を開始、以後途切れることなく現在まで超強化型加算算定を維持することができました。**

また、在宅復帰・在宅生活支援のため、多様な在宅系サービスを切れ目なく提供できるよう連携体制を強化充実させてきました。具体的には、多職種協働による退所前カンファレンス、通所リハカンファ、入所前後訪問、退所前後訪問などを行い、ご家族も参加して情報交換、情報の共有化を図り、**老健を退所された後も、通所リハ、訪問リハ、短期入所等を効果的に利用していただくことにより、在宅生活が長く続けられるよう他事業所とも協力して居宅介護支援の連携体制を作り実践してきました。**

さらに、リハビリ関連の加算に加え、認知症専門ケア加算、褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算、経口維持加算、口腔衛生加算、療養食加算などの多職種協働による専門性の高い加算の取得に努め、質の高い介護と医療を提供するように努めてきました。

2. 居宅介護支援センターの整備、各専門職の確保と人材育成、研修活動

「入院から在宅への流れ」に対応し、令和元年度から居宅介護支援センターはケアマネ6名体制を維持し、在宅生活においても訪問リハビリや居宅介護の機会を提供、必要に応じて短期入所の利用を進めてきました。

また、調理員の増員によりこれまで十分に取組みえていなかった嚥下食（やわらか食、ソフト食）の開発と栄養マネジメント委員会や検食、さらに職員研修会等を通して嚥下食の改善・定着や療養食加算の取得に努めるとともに、天橋園のデイサービスやハウゼへの昼食の提供を継続しています。令和2年度は、セラピストに加え介護職員や看護職員を新規採用、定年後の再雇用などで人員を確保することができました。

3. ナースコールシステムの活用とリスクマネジメント

平成30年度補正予算で承認いただいたナースコールシステムの更新事業は年度をまたいだ令和元年8月に更新工事を完了しました。5月に着工、7月末までに**ナースコールとPHS、監視カメラ、LAN ケーブルを更新、利用者の居室とベッドマップを大型モニターに表示、さらに更新した固定電話機に PHS を連動させて電話転送を可能としました**。8月にはナースコールと介護記録システム（ちょうじゅ）と連動させナースコールとその対応が「ちょうじゅ」に自動的に記録されるようになりました。また、固定電話は光電話に変更、本部との内線化を進めることができ通信費用の抑制につながりました。また、施設内の監視カメラシステムの更新によりデジタル保存が可能となり、転倒などのリスク回避に活用できるようになりました。

新型コロナウイルス感染の拡大のため、入所者の面会制限や往診訪問活動の制限を強いられましたが、システム更新に伴う LAN 回線の強化、タブレット端末や新規に設置された大型モニターを活用し、オンライン面会やオンライン訪問診療、リモート研修等に有効に活用することができました。

4. 職員研修（OJT、Off-JT）の充実、職員間の情報共有

施設内職員研修会を月一回以上開催し、リスク、虐待防止、感染対策の重要項目に加え、医療、看護、食事形態等について研修を企画するとともに、部署ごとに OJT(On-the-Job Training)プログラムを作成して項目ごとに実践検証を行い、介護、医療の質的向上、人材育成に努めてきました。

施設外研修（Off-JT）にはケアマネや介護職員を中心に積極的に研修に派遣しました。一方、新型コロナの感染拡大に伴い、リモート研修の機会が増え、看護職や地域連携の介護等を中心に参加しました。

5. 環境にやさしい介護施設の整備

令和2年度は、令和元年度に ASSET 補助金で行いました空調設備の更新「先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業」の検証年度となり、**更新済みの空調設備と自主努力で更新した LED 照明の活用により二酸化炭素排出削減に努めてきた結果、電気代において令和元年度は約 1,500 万円の経費から、令和2年度は約 1,130 万円となり約 370 万円の削減につながりました**。また、これまでの空調修繕費を勘案しますと、年間 500 万円程度の経費削減につながりました。

6. 利用者の障害や状態に対応し、安全・安心でかつ楽しい食事を提供する

令和2年12月に増床された天橋園のグループホームの介護職員の負担を軽減するため、なぎさ苑の給食部から食事を提供することとし、**なぎさ苑の調理員と管理栄養士を増員し、なぎさ苑の利用者はもちろん、天橋園のデイケア、ハウゼ、認知症グループホームの栄養管理、食事提供に業務を拡大しました。**また、食事観察会議（栄養サポート委員会）を毎週開催し、利用者の摂食、嚥下状態に対応した食事や食事形態の提供を行っている。

【部署別事業報告】

（1）支援相談室

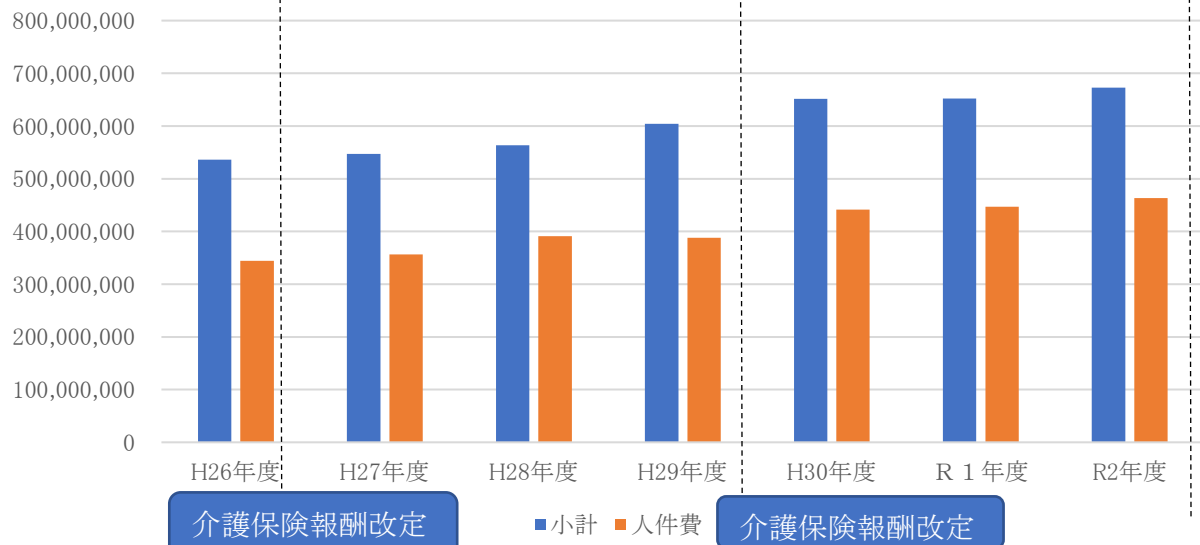
平成30年6月から算定を開始した「超強化型加算」の算定を令和2年度も継続することが出来ました。

支援相談室が中心となり算定要件である「在宅復帰率」「回転率」「入退所前後訪問数」に加えて「入所稼働率」を小まめに把握し、毎月の業務運営会議などを通して各部署主任を中心に情報共有を行いました。その中で宮津市内では、要介護4、5の入所者が特養へ入所されるケースが増え、在宅復帰率、稼働率に大きな影響を与えましたが、在宅復帰率60%以上を維持することができました。

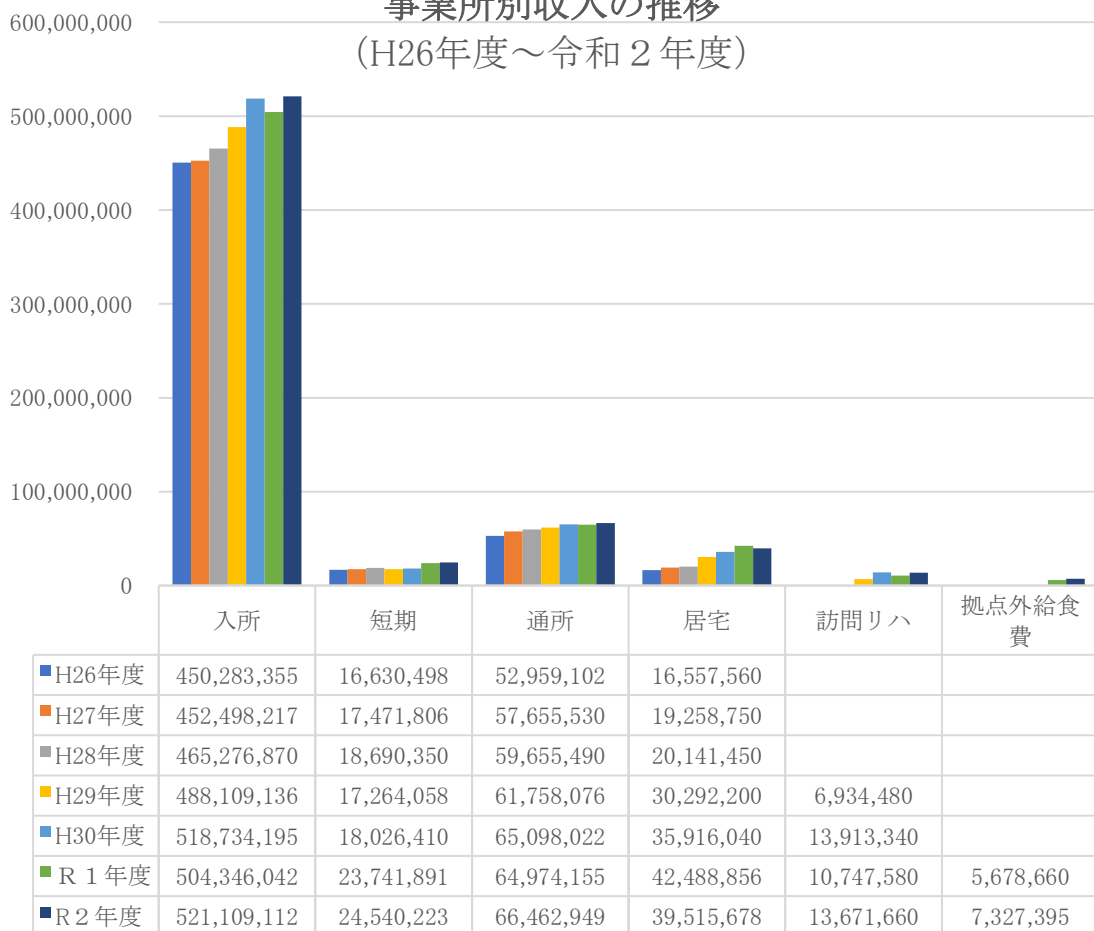
また令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、面会制限、行事の自粛など様々な対策、制限を強いられました。ご家族の面会についてはできる限り対面面会が行えるようにと考え、感染症対策委員会を中心に近隣地域の感染状況の確認、情報交換を行い、短時間、少人数等の条件を設け、感染予防対策を十分に講じたうえで対面面会の実施を行いました。コロナ禍の中、新たな取り組みとして施設へ来苑、または自宅からできるオンライン面会システムの導入、毎月発行しているなぎさ苑だよりとは別に、個々のご利用者の様子をお伝えする「なぎさ苑ホットレター」の発行を実施して、ご家族に少しでもご利用者の様子をお伝えできるよう努めました。また、看取りの方には、短時間に限っての面会をしていただけるよう配慮を行ないました。

その他、可能な範囲で例年同様、地域貢献活動にも取り組み、吉津公民館にて「須津なぎさカフェ」の開催、吉津小学校3年生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

介護保険事業収支の推移 (H26年度～令和2年度)



事業所別収入の推移 (H26年度～令和2年度)



◎ 入所 療養介護状況

	入所稼働率 含短期入所	在宅復帰率	ベッド 回転率	重度化割合 要介護 4+5	入所前後 訪問指導	退所前後 訪問指導
R 元年度	95.7%	62.0%	16.3%	32.5%	48.6%	44.5%
R 2 年度	96.7%	61.0%	19.0%	28.0%	44.1%	44.1%

退所者状況

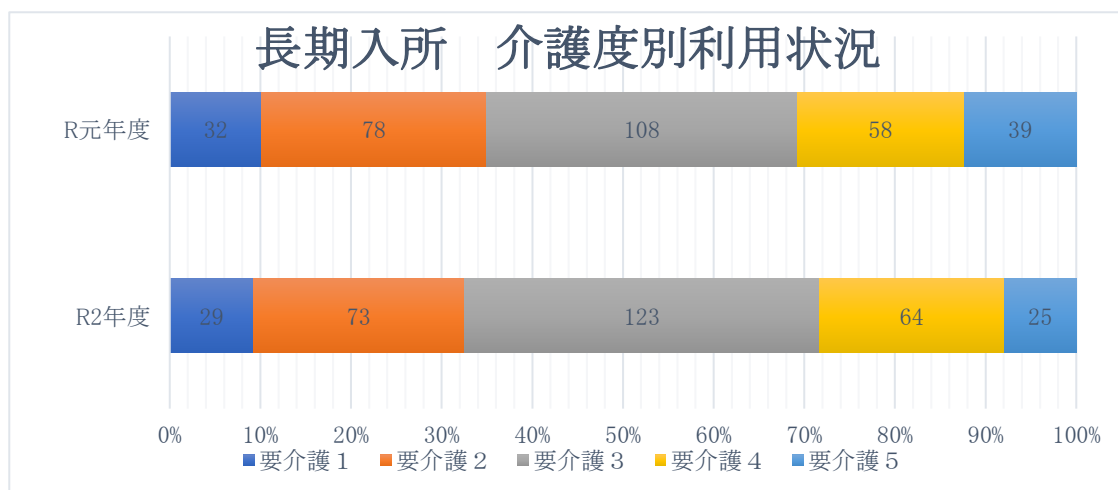
退所後 年度 区分	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合 計
R 元年度人数	104	7	28	2	32	16	4	193
R2 年度人数	105	12	45	0	25	11	6	204

年齢・性別 入所者数

	65 歳未満	65～69	70～79	80～89	90～99	100 以上	合計
R 元年度	6	3	25	133	98	16	281
R2 年度	6	6	29	122	113	13	289

介護度別 入所者数・平均介護度

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	平均介護度
R 元年度	32	78	108	58	39	315	3.0
R2 年度	29	73	123	64	25	314	3.0

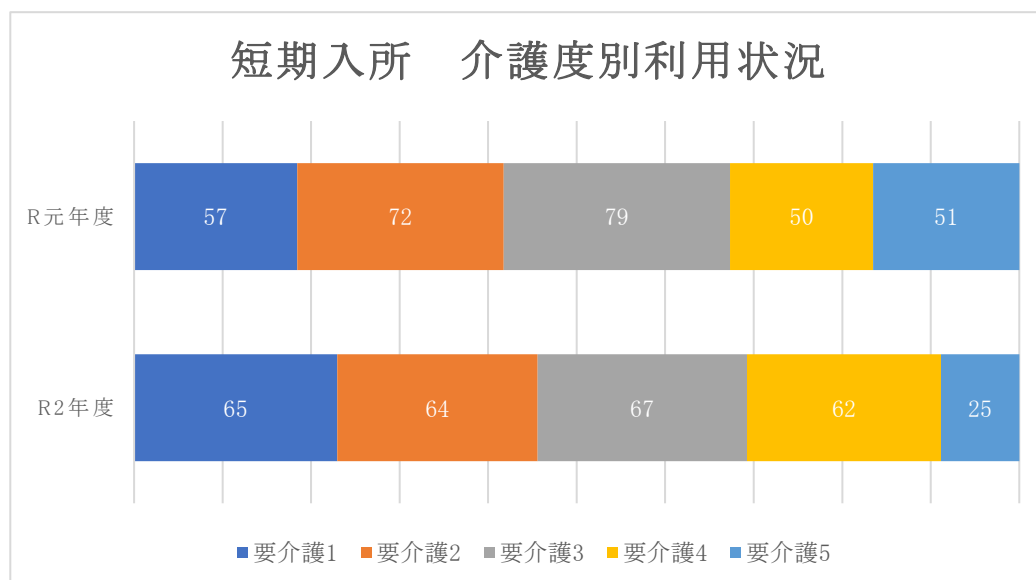


地区別入所者数

	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
R 元年度	154	97	12	18	281
R2 年度	153	116	7	13	289

◎短期入所 療養介護状況 介護度別 入所状況

介護度 年度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計	平均 介護度
R 元年度	57	72	79	50	51	309	2.9
R2 年度	65	64	67	62	25	283	3.0



地区別 入所状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
R 元年度	255	54	1	0
R2 年度	224	59	0	0

新規契約者

	新規入所者
R 元年度	28
R2 年度	34

(2) 介護部門

(一般療養棟)

令和2年度はコロナ禍の中、私たち介護士にとってご利用者への関わり方やレクリエーション等、何事も感染予防を最優先させての一年でした。ご家族との面会も自由にできなくなった現在では、オンライン面会や MENKAIGO 等の新たな面会方法を導入し、オンラインでの面会で会話されるご利用者の対応をさせていただくことで、ケアに携わる職員も気持ちを引き締める機会を得る事が出来ました。

今年度は認知症リーダー研修、認知症実践者研修を受講する職員が中心となり、認知症の人への理解・対応や職員育成についてフロア全体で取り組むことで、情報共有の大切さを学びました。このことは、受講した職員だけでなくフロアの職員全体のスキルアップにつながったと感じています。また、限られた職員配置の中での有効な業務の進め方をそれぞれが考え行動することが出来、自ら働きやすい環境を作る為業務の改善に取り組みました。

看取りケアについては、年度途中の居室の改修にてよりスタッフステーションの近くに看取り期の入所者の生活スペースを確保して頂けたことで、職員一人一人が状態把握を意識することが出来ました。

リスク管理については物品の補充や入苑時にリスク説明を丁寧に行うことで、転倒させない環境から転倒しても重大事故につながらないような環境整備を意識しました。接遇についても、常に意識し行動する事に努め、今後も気を抜く事なく誰に見られても恥ずかしくない接遇を心掛けていきたいと考えています。

(認知症専門棟)

令和2年度においては新型コロナウイルス感染拡大に伴い、面会制限や業務の見直し、感染拡大防止に努めてきました。ご利用者にとっては、行事の中止や、フロア移動の制限や、マスクの着用、ご家族との面会が出来ない事から不安になられるご利用者もありました。その中で、新たな面会の方法として来苑されての iPad によるオンライン面会や MENKAIGO の活用による遠方からでも顔を見ながら会話のできる事も出来る様になり、限られた方、時間ではありますがご利用者だけでなく、ご家族も安心されたと思います。

職員については、毎日の検温や、マスクの着用を義務付けし、不要不急の外出をしない事を注意し、手洗い、消毒の徹底も行ってきました。感染を持ち込まない、広げないといったコロナに対しての緊張感の中での業務にあたる精神面での負担は大きなものでした。その中でも、周辺地域でのコロナ感染がある中で、なぎさ苑においては感染する事なく1年やっていくことが出来ました。

今年度から副主任をおき新体制になり、職員の人材育成に力を入れ、認知症高齢者の安心、安全にケアの実施に取り組んできましたが、職員の退職や、体調不良から休業も続き体勢の立て直しの期間でもありました。その後、新任職員を採用となり、人材育成に取り組んでいます。

研修についても極端に減り、参加できないこともありましたが、ICTの環境整備により、ZOOMによる研修や、オンライン会議も出来る様になり、移動等の時間、経費の削減、複数での参加が可能となりました。

次年度については、引き続き、感染症拡大防止に努めると同時に、人材の確保育成に努めていきたいと考えています。また、介護報酬の改定に伴い、LIFEの活用も職員全員が理解をし、科学的介護の実践に努めていきたいと思っています。

(3) 看護部門

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大があり、その対策が求められました。前例がない中、各種ガイドラインに基づき、消毒方法の見直し、防護具の確保、備品の整備、利用者様・職員の体調管理の実施を進めていきました。通常使用する消毒液(次亜塩素酸ナトリウム溶液)の濃度を0.02%からコロナ対策として0.05%に調整して使用し、厚労省発信による指導内容を参考に、施設に適した感染予防対策の検討、それを基に職員研修を行いました。新型コロナウイルス感染症の予防対策の一つとして、手洗い・手指消毒がありますが、例年のインフルエンザ・ノロウイルスの予防よりはるかに高い頻度で手洗い・手指消毒を職員・利用者一人一人が行った事により感染症の発症なく新年度を迎えられる事となりました迅速キットによるコロナウイルス抗原検査・唾液PCR検査を導入し、疑い事例のあった利用者・職員の検査を実施し、施設へ

の持ち込みによる感染を阻止する事ができました。

職員研修会においては、感染対策委員会を軸に、新型コロナウイルス感染症に対する施設でのガイドラインを作成し、利用者に発症があった場合の対応方法や動線、隔離対応室の決め方、ゾーニングのシミュレーションについて研修を行いました。

3月に京都府による高齢者施設職員等に対する新型コロナ検査事業では、106名の職員を対象に新型コロナウイルス抗原検査の実施を行い、全職員の陰性を確認しました。

短期入所受け入れでは入所された利用者様が、入所後に他施設において陽性者との濃厚接触が判明した事例を1例経験しました。施設内ガイドラインに基づき、居室隔離、ゾーニング、対応に当たる職員の区分け等の感染経路対策、標準予防策の実施を行い、事前のシミュレーションの効果を認識しました。

肺炎など点滴加療を必要とする疾患について、可能な限り施設内で実施し、入院を回避することで療養生活が継続できるよう努めました。今年度は肺炎10件、尿路感染11件の治療を施設内で行いました（所定療養施設疾患費）

施設内のOJT（On-the-Job Training）としては対面での研修が困難な中、個人防具の脱着訓練、吐物処理訓練について研修会を開催しました。また看護職員個々のフィジカルアセスメント能力の向上を目指し7名の看護職員が京都府看護協会主催の実践能力講習（全てオンライン研修）を受講しました。今年度は伝達講習会の開催は困難であるため、レポートの回覧を通して学びを共有しました。看取りについては看護協会の看取りサポート養成講座に看護職員を派遣しプログラムを修了しました。

転倒による骨折への対策については4月より転倒アセスメント評価を開始し、家族との情報共有の仕組みを整えました。また、転倒時の衝撃緩和策としてワンダーマットやヒッププロテクターの導入も進めました。本年度の施設内で発生した転倒事故に関連した骨折は12件でした。

看取りについては看取り初期の段階で家族とのIC開催による病状説明の実施、必要に応じた他科受診を行い病状の理解・受容が深まるようご家族への支援に努めました。コロナ禍において面会制限がある中でもご家族の面会を条件的に緩和し関わる時間に配慮しました。ご家族から手紙を頂く事もあり職員の励みにもなりました。

褥瘡マネジメント加算、排泄支援加算の算定状況

褥瘡マネジメント加算	排泄支援加算
令和元年度 203 件	令和元年度 404 件
令和2年度 164 件	令和2年度 424 件

本年度の看取り件数

施設内死亡件数	看取り対応件数
令和元年度 16 件	令和元年度 12 件
令和2年度 11 件	令和2年度 8 件

（4）通所リハビリテーション

令和2年度は、新型コロナウイルス感染者が近隣でも出た影響もあり、数名が利用

を自粛されましたが、施設全体で感染症予防対策対応に務めた事もあり感染者も無く続けてサービスを提供できました。

リハビリ職員が1名配置されていることで、リハビリ提供体制加算4、リハマネ加算Ⅲ、認知症短期集中リハ加算を算定、リハビリ会議の準備・進行、通りハ計画書の作成等、安定した加算取得が継続出来ました。また、歯科衛生士による継続した介入により口腔機能向上加算希望者も増やす事ができました。近年はリハビリのできるデイ・男性利用者の多いデイとして、さらに男性利用者が増え、周辺のデイでは珍しい状況となっています。

ご利用者が安心して在宅生活が送れるように、送迎時や利用中の様子を居宅支援事業所や他サービス事業所等に報告し、各関係機関と情報の共有を図り、密に連携を取り合えるような関係づくりに努めました。

延べ並びに平均利用者数・利用率：(要支援も含む)

	利用定員 /日	営業 日数	延利用者数	平均利用者数 /日	利用率
R元年度	27人	259日	5,933人	22.9人	84.8%
R2年度	27人	259日	5,772人	22.2人	82.5%

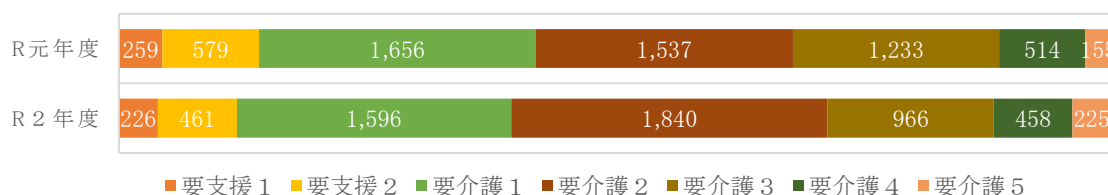
※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

介護度別利用状況・平均要介護度（介護給付事業）

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均 要介護度
R元年度	1,656	1,537	1,233	514	155	5,095	2.3
R2年度	1,596	1,840	966	458	225	5,085	2.2

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

通所リハビリ介護度別利用状況



介護度別利用状況（介護予防事業）

	要支援1	要支援2	介護予防計
R元年度	259	579	838
R2年度	226	461	687

認知症短期集中個別リハ加算

(240単位)	延人数
R元年度	127
R2年度	256

※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

リハビリマネジメント加算（Ⅰ・Ⅲ）

（要介護・支援含）	延人数
R 元年度	1,053
R 2 年度	1,015

選択的サービス複数実施加算（介護予防）

（480 単位）	延人数
R 元年度	93
R 2 年度	96

（５）機能訓練室（リハビリセラピスト＜OT、PT、ST＞）

令和２年度は、超強化型加算維持のため入所利用者様全員に週３回以上の個別リハビリを行いました。セラピストの産休により、セラピスト一人当たりの担当者負担増がありましたが、短期集中個別リハビリや認知症短期集中リハビリテーション加算の算定も可能な限り行い、在宅復帰に向けた個別リハビリが提供できるよう努めました。

また、加算算定により利用者様に提供できるリハビリ時間が長くなり、信頼関係の構築や在宅復帰を目指した基本動作練習、生きがい作りを目的とした園芸療法など質の高いリハビリが提供できたと考えます。

入所部門

	短 期 集 中 (240 単位)	認知症短期 集中 (240 単位)	短期入所 個別(240 単位)	経 口 維 持 Ⅰ (100 単位)	経口維持Ⅱ (400 単位)	個別リハ (0 単位)
R 元年度	5,692	3,466	557	265	265	10,194
R2 年度	7,100	4,311	544	253	253	9,486

通所部門

	リハマネ加算Ⅰ (330 単位)	リハマネ加算 Ⅲ (800 単位)	短 期 集 中 (110 単位)	認知症短期集中 (240 単位)	運動器機能向 上加算 (225 単 位)	リハビリ提 供体制加算 (24 単位)
R 元年度	1,041	12	0	127	165	3,992
R2 年度	1,003	12	0	256	133	5,073

（６）訪問リハビリ

令和２年度は、感染症予防対策として９月より訪問リハビリ担当者を２名専従体制とし、積極的に新規利用者を受け入れるなどし、訪問リハビリ部門の安定した運営体制づくりに寄与しました。今後も感染症対策に留意しながら、リハビリスタッフを柔軟に配置するなど、安定した運営体制を構築し、地域の要望に応えられるよう努めます。

年度	実施単位数合計 (290 単位)	リハマネ加算合計 (230 単位)	短期集中リハ加算合計 (200 単位)
R 元年度	3,469	252	21
R2 年度	4,166	321	65

(7) 給食部門

利用者の状態に合わせた食事形態、療養食（糖尿病食、塩分制限）、看取り期の利用者に寄り添った食事、栄養提供に取り組みました。嚥下困難者に対応した食事形態（やわらか食、ソフト食、ミキサー食）の安定した提供に努めました。定期的に栄養マネジメント委員会や食事観察会議に参加して摂取状況を把握、フロアのケアカンファにも出席して栄養面の提案をしてきました。また、利用者様に合わせた個別対応、看取りなど、多職種と連携し体調によっての食事の提供にも協力しました。

令和2年度は、前年度同様に食の充実を図るために取り組みました。食形態充実ややわらか食の対応、天橋園（デイサービス、ハウゼ、天橋の家）へ食事提供の増加等の対応や HACCP 導入の取り組みにあわせ管理栄養士や調理員の連携により作業面の改善を図りました。又今年度も新任職員を受け入れ将来に向けた人材育成に努めました。

(8) 医務室（診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師）

医師の指導の下、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となって、医薬品や検査キット、医療器材等の整備を通して、診察室と薬局の管理と整備に取り組みました。

医師と薬剤師は、同種同効薬の見直し、ジェネリック医薬品の採用を含め在庫医薬品の見直しを行い、医薬品費のコストダウンを行ってきました。また、入所者に多くみられる多剤処方（重複処方やポリファーマシー）を見直し、減薬に努めてきました。

入所時リスク説明書、病状説明書、看取り同意書＜人生の最終段階における医療・介護にかかわる同意書＞などを準備、活用することで、家族への説明と同意（Informed Consent: IC）を多職種協働で行うように対応し、利用者のファイルのトップに入れることで、急変時や看取りケアの徹底に活用してきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するため、発熱などの症状のある方には抗原検査の迅速キットを導入、無症状であっても感染疑いのある職員には PCR 検査を実施するなど、自治体やメディアの情報をもとに感染予防対策を行いました。

インフルエンザへの対策として、入所者や通所利用者へのインフルエンザワクチン接種を実施するとともに、職員には無料でワクチン接種するばかりでなく、家族がインフルエンザに罹患した場合にも潜伏期間、職員に自宅待機を命ずるなど対策を強化してきました。しかしながら、平成30年度末には入所者にインフルエンザ発症が広がり、ノロウイルスの集団感染が発生したため、認知症専門棟の隔離を行うことがあったためガイドラインの見直しを行いました。

歯科衛生士は、入所者全員を対象に口腔衛生のチェックを行い、口腔衛生管理体制加算、口腔衛生加算を取得するとともに、通所利用者にも対象を広げ、加算も取得しました。フロアの介護、看護スタッフへの指導を行い、口腔衛生管理に取り組み、加算を取得しています。

年度	口腔衛生管理体制加算	口腔衛生管理加算	所定疾患施設療養費	緊急時治療加算
R元年度	1,258	1,064	247	4
R2年度	1,273	1,151	109	0

(9) 事務室（施設管理部門）

令和2年度は、令和元年度に ASSET 補助金で行いました空調設備の更新「先進対策の効率的実施による二酸化炭素排出量大幅削減設備補助事業」の検証年度となり、更新済みの空調設備と自主努力で更新した LED 照明の活用により二酸化炭素排出削減に努めてきた結果、電気代において令和元年度は約 1,500 万円の経費から、令和2年度は約 1,130 万円となり約 370 万円の削減につながりました。また、これまでの空調修繕費を勘案しますと、年間 500 万円程度の経費削減につながりました。

平成27年度以後、介護保険事業収入は増加しましたが、増収額の多くは入所（長期）に依存しており、入所以外の活動も老健の入所区分における増収に結び付けることなしには、経営基盤の強化になりません。従って、すべての職種が共同して老健の役割である在宅復帰と在宅生活支援に資源を集中させる必要があります。介護事業の推進には、人材の確保と育成が必須であり、人件費は増加傾向にあるが、それを上回る収入増加をえることで、経営基盤の強化を図ってきました。

介護職員特別処遇改善加算については、年度末に当該職員に支給され、人件費率の上昇の一因となっている。今後の対応については、本部で十分に検討されている。また、介護、看護職員の一部が高齢化しており、60歳定年や再雇用、定年の延長などの検討が必要である。中途採用の前歴換算を見直し待遇改善を行ったことが職員確保につながっている。管理栄養士の確保、育成医にも取り組んでいるが、直ちに充足される見通しがたっていない。

(10) 居宅介護支援事業所

高齢者が地域の中で自分らしく日常生活を営むことができるように、相談援助やサービス調整を行いました。

令和2年度も6人体制を維持し、余裕を持ちながら利用者本位の適切なケアプラン作成に努めることができました。宮津市（栗田から里波見まで）、与謝野町岩滝地区以外にも担当地区を拡大し、随時新規受け入れを行い件数維持に努めました。

医療連携については、主治医や関係機関との連携を密にし、利用者がスムーズに在宅生活を送る事ができるように支援していきました。また、対応困難事例についても、地域包括支援センターと連携を行いました。

令和2年度についてはターミナルケアマネジメント加算7件（必要要件は5件）、退院退所加算48回（必要要件35回）となり、令和3年度4月より特定事業所加算Ⅱに加えて、医療介護連携加算を算定することとなります。今後も加算算定維持に向けて努力を継続していきます。

今年度はコロナ禍のため各種研修が中止や延期となりましたが、リモート等を活用し介護支援専門員研究会や地域ケア会議での意見交換や研修に参加し、多職種と交流する機会を持ち、法人内部での定例会議や事例検討を感染予防に努めながら開催し、ケアマネとしての資質向上に努めました。

次年度も利用者やご家族に対して常に笑顔を大切に、傾聴の姿勢を持ち、住み慣れた地域で、笑顔で過ごして頂けるよう努めていきたいと思ひます。

相談件数

内容 年度		介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
R 元年度	実数	273	11	4
	延数	23,480	35	13
R2 年度	実数	267	10	2
	延数	25,805	24	35

ケアプラン作成管理件数

	延べ人数	実件数
R 元年度	2,557	273
R2 年度	2,470	267

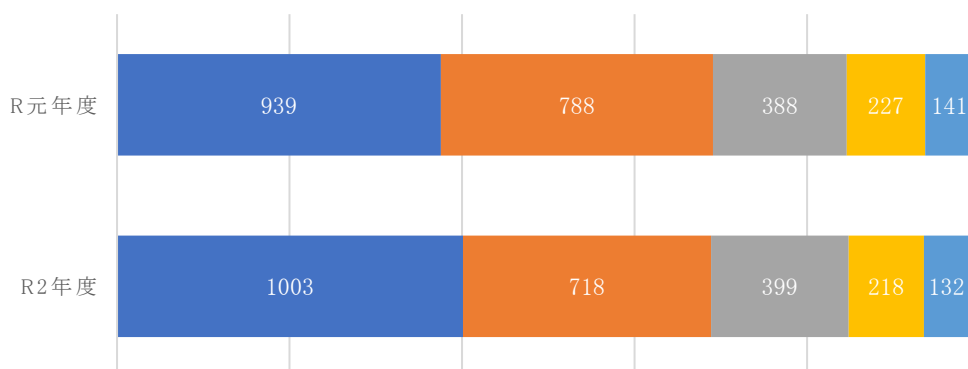
※前年度の数字に誤りがありましたので、訂正して表示しています。

介護度別プラン作成延べ人数

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
R 元年度	939	788	388	227	141	2,483
R2 年度	1,003	718	399	218	132	2,470

居宅介護支援 介護度別ケアプラン作成人数

■ 要介護 1 ■ 要介護 2 ■ 要介護 3 ■ 要介護 4 ■ 要介護 5



(地域事業・総合事業)

事業内容	参加者数
吉津小学校認知症サポーター養成講座 10 月 8 日	10
須津なぎさカフェ (吉津公民館) 6 回 (毎月第 2 水曜開催)	14
合 計	24

(実習生等受け入れ状況)

月	受入事業所等	実習内容	受入実人数
2月～10月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	28
8月	舞鶴YMCA国際福祉専門学校	介護学生施設実習	3
9月	京都府福祉実践力人材養成科	介護職員初任者研修施設実習	4
合 計			35

【研修等参加状況】

(施設外研修) (WEB研修)

研 修 内 容	参加数	研 修 内 容	参加数
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会 (福祉、教育総合プラザ)	2	宮津市市内施設長会議 (福祉、教育総合プラザ)	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(認知症介護実践者研 修)	1	施設長会議兼宮津市生活支援サービス研究会 (福祉、教育総合プラザ)	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(基礎研修)	2	北部医療センターがん診療棟館室説明会 (北部医療センター)	1
京都府認知症介護実践者等養成研修(認知症介護実践リーダ ー研修)	2	福祉実践力人材養成科「合同事業所説明会(丹後)」 (福祉、教育総合プラザ)	2
全老健介護報酬改定研修(WEB研修)	10	「E式合同考課者研修会」(WEB研修)	3
宮津市地域ケア会議 福祉、教育総合プラザ	6	「福祉職員こころの教科書セミナー」 なぎさ苑会議室(WEB研修)	2
介護支援専門員実務経験者更新研修	1	宮津市介護支援専門員研究会	6
府老協令和3年度介護報酬改定について(WEB研修)	10	介護報酬改定研修(WEB研修)	6
全老健 令和3年度介護報酬改定研修会(WEB研修)	12	令和3年度介護報酬改定について(WEB研修)	1
居宅他事業所と事例報告会(宮津市協 会)(天橋園会議室)	6	高齢者施設等職員に対する新型コロナウイルス抗原定 性検査(WEB研修)	3
地区別看取りサポート研修(看取りケア研修)WEB	1	新型コロナウイルス感染症対策研修会(WEB研修)	1
患者と自分を守る看護倫理(WEB研修)	2	丹後圏地域域リハビリテーションセラピスト連絡会(WEB研 修)	1
実践能力向上研修(裁判所から学ぶ適切な看護記録)(WEB研 修)	2	府老協栄養部会(ZOOM会議)	2
実践能力向上研修(慢心不全の患者の看護)(WEB研修)	1	府老協支援相談員部会(ZOOM会議)	1
実践能力向上研修(高齢者のフィジカルアセスメント)(WEB研 修)	1	府老協 事務部会(ZOOM会議)	1
実践能力向上研修(急変予兆を見抜く身体評価)WEB研修	2	府老協リハビリテーション部会(ZOOM会議)	1
実践能力向上研修(心電図モニタリングの基礎)WEB研修	3	宮津市の地域リハビリテーションの展望(福祉、教育総合プラザ)	2
医療と介護の連携推進研修会(WEB研修)	5	HACCP導入セミナー「宮津商工会議所」 宮津歴史の館大会議室	2
介護IT・IoT 導入最前線 「IT機器選定・現場定着化活用ノウ ハウ研究」ウェビナー】(WEB研修)	3	PCR検査手続き等研修(武田病院)	2
参加延人数合計			111

(施設内委員会・会議等開催状況)

会 議 名	開催回数
業務運営会議	12
入所検討会議	49
2階・3階ステーション、デイケア、リハビリ	48
看護・介護主任会議	12
ユニット会議・ユニットリーダー会議	96
部署別会議（毎月月末までに）	12
感染症予防委員会（臨時会議含む）	26
褥瘡予防委員会	12
身体拘束廃止、虐待防止委員会	12
リスクマネジメント委員会	12
職員研修委員会	12
苦情解決委員会	2
サービス向上委員会	12
情報ネットワーク委員会	12
栄養マネジメント委員会	12
衛生委員会	12
認知症ケア委員会	11
広報 WG 会議	12
合同排せつ委員会	9
転倒対策 WG 会議	7
リハ介護連携 WG 会議	8
なぎさ苑敬老まつり委員会	5
感染症予防研修会打合せ	2
抗原体検査準備会議	1
北星会施設長会議	24
北星会事務会議（給与プロジェクト会議含む）	10
北星会相談員合同会議（7月、1月）	2
北星会居宅支援合同会議（4月、7月、9月、11月。3月）	5
北星会理事長通達会議（なぎさ苑会議室）ZOOM配信	1
天橋園群食事提供準備会議	2
合 計	452

(施設内研修)

月	日	タイトル	参加人数	担当
6 月	3 回実施	令和 2 年度の事業計画	95 名	施設長
7 月	28 日 (火)	新型コロナウイルス感染症の動向となぎさ苑の対応	65 名	感染対策委員会 施設長
8 月	25 日 (火)	接遇マナー	33 名	リスク委員会
9 月	25 日 (金)	感染症におけるリスクマネジメントの考え方	3 名	法人研修 外部講師 (リブドゥ)
9 月	29 日 (火)	不適切ケアについて —事例を基にグループワーク—	29 名	身体拘束廃止委員会
10 月	27 日 (火)	居宅からみた老健の役割	31 名	居宅介護支援センター
10 月	3 回実施	感染予防コロナ対策 (個人防護具の着脱方法と施設内感染拡大防止対策)	75 名	感染対策委員会
11 月	30 日 (月)	身体拘束について (WEB 研修)	4 名	法人研修 外部講師 (リブドゥ)
12 月	29 日 (火)	COVID-19 ワクチンアップデート	な 43 名+本 6 名+郷 6 名+与 12 名+天 9 名	施設長
1 月	13 日 (水)	副主任・リーダー研修	12 名	小谷元/OT 小川
1 月	25 日 (月)	スキンケアについて	21 名	褥瘡予防対策委員会
1 月	25 日 (月)	口腔ケアと摂食嚥下障害 (WEB 研修)	6 名	DH, ST、RD、MD
2 月	25 日 (木)	介護報酬改定説明会 (WEB 研修)	12 名	全老健
2 月	25 日 (木)	事故予防対策	25 名	リスク委員会
3 月	19 日 (金)	令和 3 年度介護報酬改定 (WEB 研修)	10 名	京都府老健協
3 月	25 日 (木)	年度末活動報告会 (事例検討/ 2F・3F)	37 名	職員研修委員会

施設・事業所別 職員数一覧																
令和3年3月31日現在																
事業名		北星会 法人本部														
			事務局長	事務局次長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員					合計
実人数	常勤職員	1	1	5												7
	非常勤職員															0
常勤換算による人数		0.2	1.0	5.0												6.2

施設・事業所別 職員数一覧

令和3年3月31日現在

天橋園拠点

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	補助員				合計
実人数	常勤職員	1		2	6	22	3								34
	非常勤職員					21	1			2	1				25
常勤換算による人数		0.8		2.0	6.0	27.7	3.3			1.1	0.8				41.7

事業所名 天橋園通所介護事業所

(利用定員 25名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他							合計
実人数	常勤職員	1		1		4	2								8
	非常勤職員					1		1							2
常勤換算による人数		0.2		1.0		4.4	2.0	0.8							8.4

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 ハウゼ天橋通所介護事業所

認知症対応型通所介護

(利用定員 12名) 介護予防含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他							合計
実人数	常勤職員	1		1		2	1								5
	非常勤職員					1	1	2							4
常勤換算による人数		0.2		1.0		2.5	1.3	1.1							6.1

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 天橋訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				5									6
	非常勤職員					17									17
常勤換算による人数		0.2				9.6									9.8

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名			グループホーム天橋の家														
			(利用定員 18名)														
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計	
実人数	常勤職員	1			1	11										13	
	非常勤職員					2										2	
常勤換算による人数		0.2			1.0	11.2										12.4	
事業所名			天橋園居宅介護支援事業所														
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計	
実人数	常勤職員					5										5	
	非常勤職員															0	
常勤換算による人数					5.0											5.0	
※1名は管理者と兼務																	

施設・事業所別 職員数一覧

令和3年3月31日現在

与謝の園拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	運転手			合計
実人数	常勤職員	1	2	3	5	43	6	1	4						65
	非常勤職員					18	4		5	2	1	1			31
常勤換算による人数		1.0	2.0	3.0	5.0	50.8	6.6	1.0	7.1	1.3	0.1	0.4			78.3

施設名 特別養護老人ホーム 与謝の園

(利用定員 長期 80名・短期 10名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医				合計
実人数	常勤職員	1	2	2	1	33	5	1	4						49
	非常勤職員					12	2		4	2	1				21
常勤換算による人数		0.5	2.0	2.0	1.0	40.4	6.2	1.0	6.6	1.3	0.1				61.1

事業所名 与謝の園通所介護事業所

(利用定員 24名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	運転手						合計
実人数	常勤職員	1		1		4									6
	非常勤職員					3	1	1	1						6
常勤換算による人数		0.2		1.0		5.4	0.3	0.5	0.4						7.8

事業所名 与謝の園訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				4									5
	非常勤職員					2									2
常勤換算による人数		0.2				4.7									4.9

※介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名			与謝の園訪問入浴介護事業所						介護予防も含む								
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員								合計
実人数	常勤職員	1					2	1									4
	非常勤職員						1										1
常勤換算による人数		0.1					0.3	0.1									0.5
※介護予防との兼務は含める。																	
事業所名			与謝の園居宅介護支援事業所														
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員								合計
実人数	常勤職員					4											4
	非常勤職員																0
常勤換算による人数						4.0											4.0
※1名は管理者と兼務																	

施設・事業所別 職員数一覧

令和3年3月31日現在

天橋の郷・Re-Style・はまなす苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	2	5	1	59	6	1	1	9					85
	非常勤職員		1			11	3			4	7	1	2	1	30
常勤換算による人数		1.0	2.5	5.0	1.0	65.3	8.2	1.0	1.0	11.3	2.4	0.8	0.6	0.1	100.2

施設名 特別養護老人ホーム 天橋の郷

(利用定員 長期 70名・短期 20名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	2	2	1	44	3	1	8					62
	非常勤職員		1			9	2		4	6	1	1	1	25
常勤換算による人数		0.7	2.5	2.0	1.0	49.1	4.4	1.0	10.3	1.9	0.8	0.4	0.1	74.2

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 天橋の郷通所介護事業所

(利用定員 35名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助	言語聴覚士	合計
実人数	常勤職員	1		1		9	1	1		1	14
	非常勤職員					2	1				3
常勤換算による人数		0.3		1.0		10.2	1.8	1.0		1.0	15.3

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名 Re-Style通所介護事業所

(利用定員 15名/午前、15名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	運転手	合計
実人数	常勤職員			1		3	1		5
	非常勤職員						1		1
常勤換算による人数				1.0		3.0	1.0	0.2	5.2

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

事業所名			はまなす苑通所介護事業所												
			(利用定員 20名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業												
			管 理 者	事 務 員	相 談 員	介 護 支 援 専 門 員	介 護 員	看 護 員	介 護 補 助						合 計
実 人 数	常勤職員			1		3	1								5
	非常勤職員							1							1
常勤換算による人数				1.0		3.0	1.0	0.5							5.5
※介護予防・総合事業との兼務を含む。															
※生活相談員1名は管理者と兼務															

施設・事業所別 職員数一覧																		
令和3年3月31日現在																		
なぎさ苑拠点																		
		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員・運転手	薬剤師	合計	
実人数	常勤職員	1	3	4	6	38	11	6	4	1	1	2	8				85	
	非常勤職員					7	3	1			1		5	3	2	1	23	
常勤換算による人数		1.0	3.0	4.0	6.0	42.0	12.9	6.7	4.0	1.0	1.1	2.0	10.5	1.2	1.2	0.4	97.0	
施設名		介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑																
		(利用定員 長期 100名・短期 空床利用型)																
		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員	薬剤師	合計	
実人数	常勤職員	1	3	4		34	11	6	4	1	1	2	8				75	
	非常勤職員					5	3	1			1		5	3	1	1	20	
常勤換算による人数		0.8	3.0	4.0		36.5	12.1	4.0	3.8	0.9	1.0	1.8	10.5	1.2	0.8	0.4	80.8	
※施設長は医師。※相談員と介護支援専門員は兼務。																		
事業所名		なぎさ苑通所リハビリ事業所																
		(利用定員 27名) 介護予防も含む・土曜日と日曜日は休業																
		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計	
実人数	常勤職員	1				4	0	6	4	1	1	2					19	
	非常勤職員					2	2	1						1			6	
常勤換算による人数		0.1				5.5	0.8	1.3	0.0	0.1	0.1	0.2		0.4			8.5	
※介護予防との兼務を含む。																		
令和2年度より実施せず																		
事業所名		なぎさ苑 通所型サービスC 介護予防・総合事業も含む																
		(利用定員 15名/午前、15名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日のみ事業実施																
		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計	
実人数	常勤職員																0	
	非常勤職員																0	
常勤換算による人数																	0.0	
※介護予防・総合事業との兼務を含む。																		

事業所名			なぎさ苑 訪問リハビリ							介護予防も含む									
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員					合計
実人数	常勤職員	1							6	4	1								12
	非常勤職員								1										1
常勤換算による人数		0.1							1.4	0.2	0.0								1.7
※介護予防との兼務を含む。																			
事業所名			なぎさ苑 居宅介護支援事業所																
			管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	調理員										合計
実人数	常勤職員					6													6
	非常勤職員																		0
常勤換算による人数						6.0													6.0
※1名は管理者と兼務																			